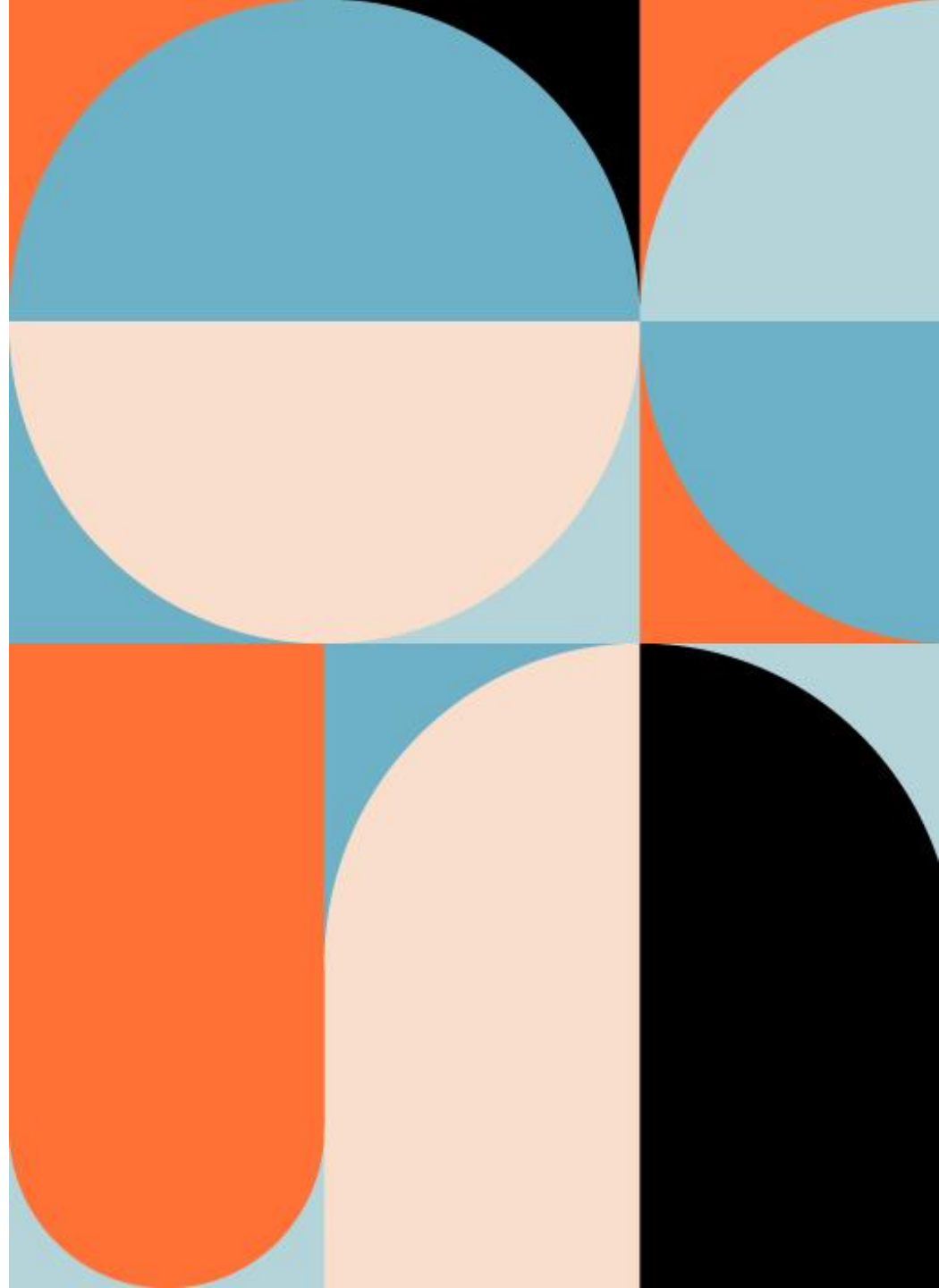


企業・自治体等向け
女性の健康課題の解決に向けた

フェムテック導入 ガイドンス

2026年5月

発行 経済産業省



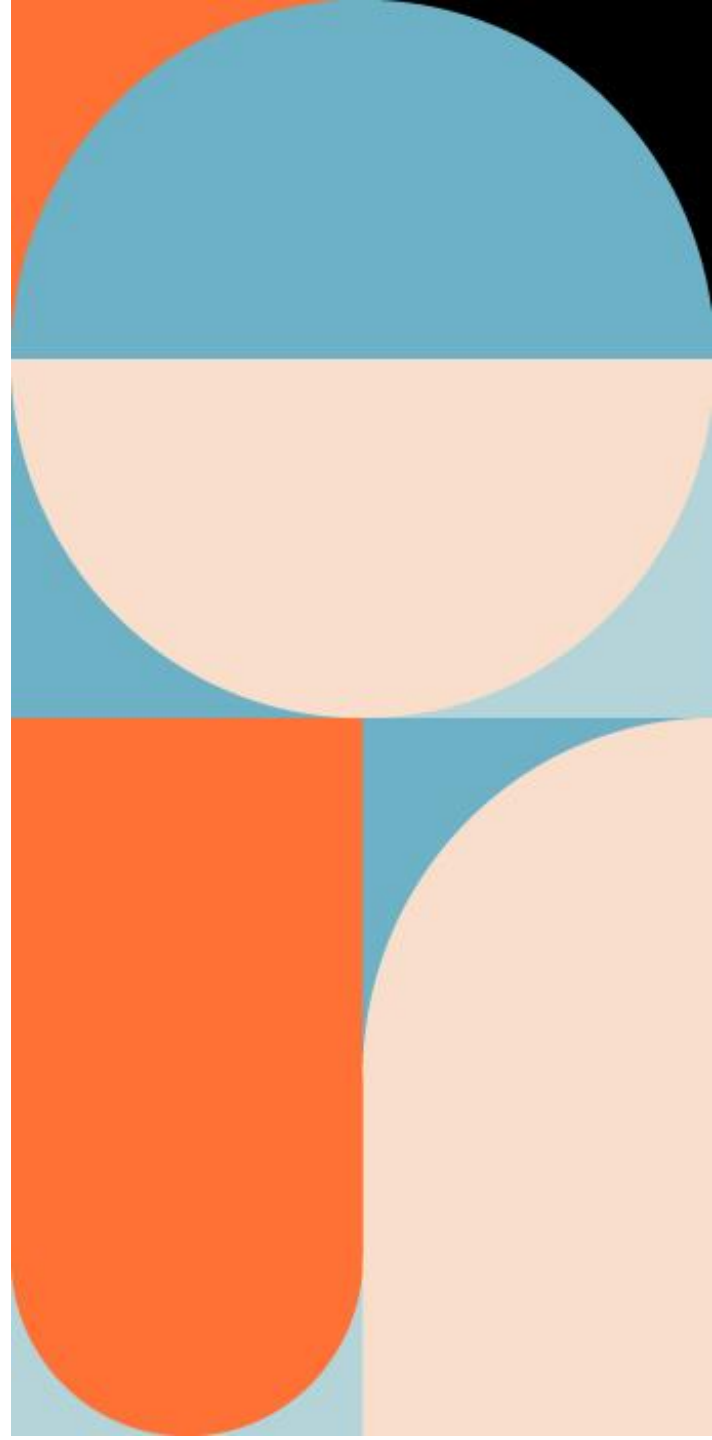


目次

1	はじめに	P3
2	フェムテックとは	P12
3	フェムテック導入の意義・効果	P19
4	導入に向けた検討・ポイント	P24
5	導入事例	P31
6	参考情報	P46

1

はじめに



1 はじめに

多様な人材をいかし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげている経営を「ダイバーシティ経営」といいます。

多様な人材が活躍することが、企業価値にもプラスの影響をもたらすということは様々な研究で明らかになっているほか、近年では、同質性の高い組織におけるリスクも指摘されており、リスクを軽減するという観点でもダイバーシティ経営が注目されています。

また、日本では少子高齢化に伴い年々生産年齢人口が減少しており、その点からも、多様な人材が活躍できる組織作りは急務です。

しかし、現状を見ると、人口の半分を占める女性が十分に活躍できる社会になっているとは言えません。その要因としては、家事育児や介護の負担が女性に偏っていること、働き方の融通が利かず、特定の働き方が出来る人だけが評価される傾向があること、そもそも意思決定層に女性が少ないことなど、様々な要因が挙げられますが、女性特有の健康課題やライフイベントに伴う体調の変化も要因の1つとして指摘されています。

女性が活躍できる社会にするため、企業には、性別を問わない両立支援や、柔軟な働き方を可能とする制度、多様な人材を前提とした公正な評価制度などの制度整備が求められますが、女性特有の健康課題に対しても、できることがあります。

企業が従業員の健康を経営的な視点で捉え、戦略的に実行する経営手法が「健康経営」として広まり、従業員への健康投資を積極的に行う企業も増えてきています。また、人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につながる「人的資本経営」の考えも広まり、本年3月には人的資本投資に対する情報開示の考え方を示す「人的資本可視化指針」が改訂（※）され、女性特有の健康課題を含む女性活躍の推進についても、企業価値の向上に向けて経営戦略と連動させて取り組むべき人材戦略上の課題の一つとして示されました。そのような中、女性特有の健康課題への対応策の1つとして、フェムテックが注目されています。

ただし、フェムテックと聞いてもあまり具体的なイメージが浮かばない方も多いでしょう。

本ガイドスでは、女性の健康課題への対応策の1つとしてフェムテックを活用する際のポイントや事例を紹介します。

誰もが働きやすい環境作りの1つの方法として、是非ご活用下さい。

（※）内閣官房 人的資本可視化指針の改訂について <https://www.cas.go.jp/jp/houdou/20260323.html>

1 はじめに：本ガイドスの概要

目的

- 本ガイドスは、**企業等が女性の健康課題に対する対応として、フェムテック導入を検討する際に参考となる手引き**です。
- フェムテック導入にあたっての考え方や進め方、**検討のステップを整理し、各企業等が自らの実情に応じた取組を検討する際の判断材料を提供**することや、地域の課題として自治体がそれらの動きをサポートする際の参考情報を提供することを目的としています。
- 働く女性が妊娠・出産等のライフイベントと仕事を両立し、女性特有の健康課題に適切に対応できる環境を整備することで、**その能力を最大限発揮し、いきいきと活躍**できる職場づくりを目指します。

主な想定読者

経営者・管理職



- ✓ 組織の人材戦略や職場環境整備を担う経営者・管理職

人事・総務担当者



- ✓ 女性活躍施策の一環としてフェムテック導入を検討する企業・自治体等の人事・総務担当者

活用方法

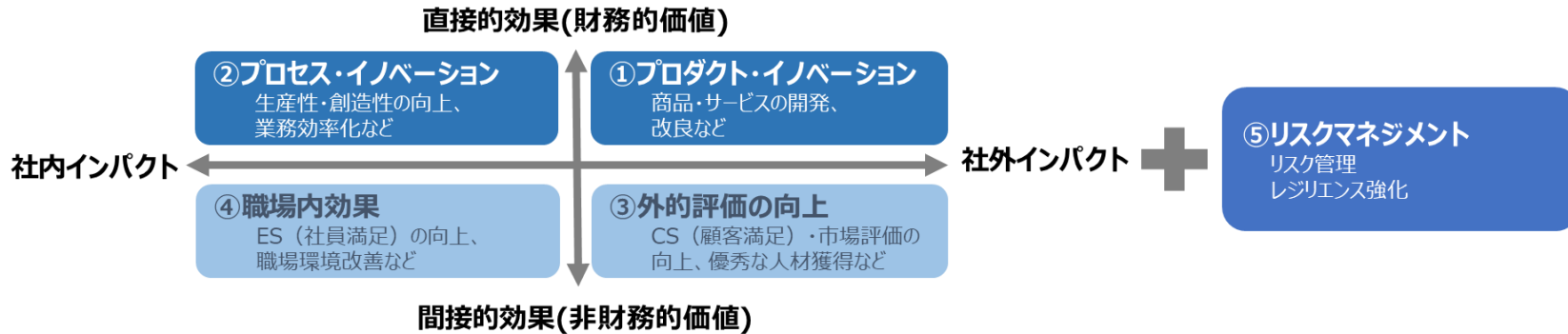
本ガイドスは、以下のような場面での活用を想定しています。

- ✓ 組織が、人的資本経営、健康経営、ダイバーシティ経営や女性活躍推進に取り組み始めた段階で、**具体的な施策検討を行う際の参考**とする
- ✓ 実際にフェムテックを組織内に導入する際の選定や進め方を検討する際の参考とする

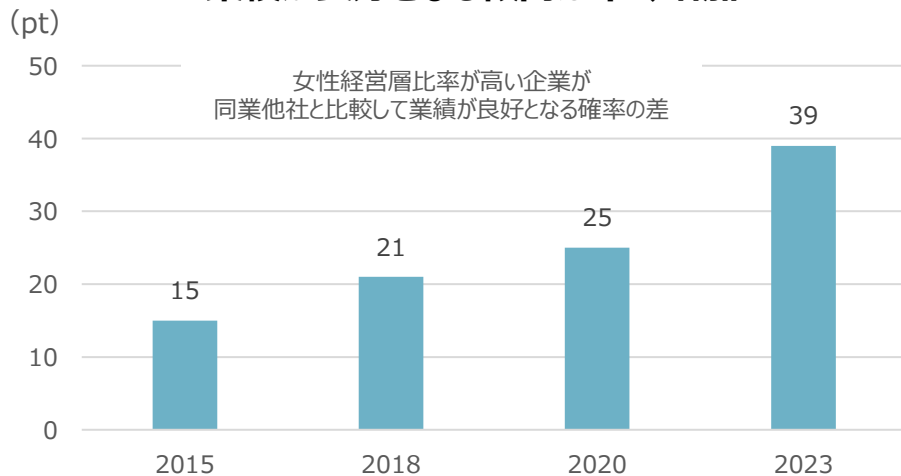
また、全体を通読するだけでなく、フェムテックの効果などについては、一部抜粋し、**社内での合意形成に向けた説明資料**として活用することも想定しています。

(参考) ダイバーシティ経営の効用

多様性の推進は、組織に多くの効用をもたらす

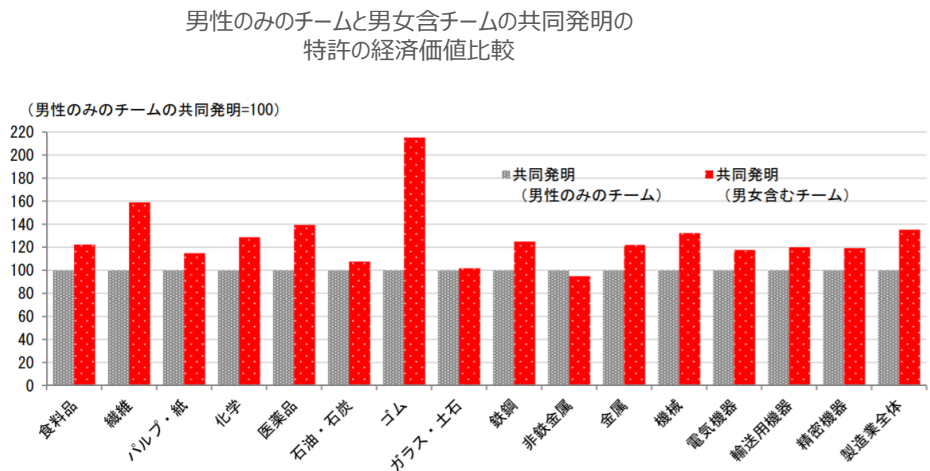


経営層に女性が多く参画している企業ほど業績が良好となる傾向は年々増加



(出典) McKinsey & Company, Diversity Matters Even More: The case for holistic impact (2023年11月), Exhibit 2 を基に作成

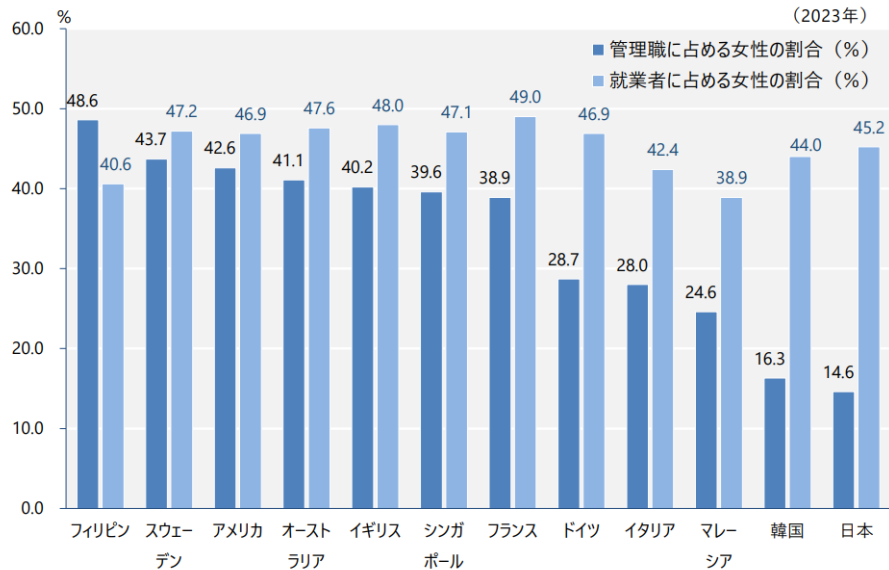
男性のみのチームよりも、男女を含むチームの方が多くの分野において特許の経済価値が高い



(出典) 三菱総合研究所「知財分析支援サービス (MRIP)」により日本政策投資銀行作成

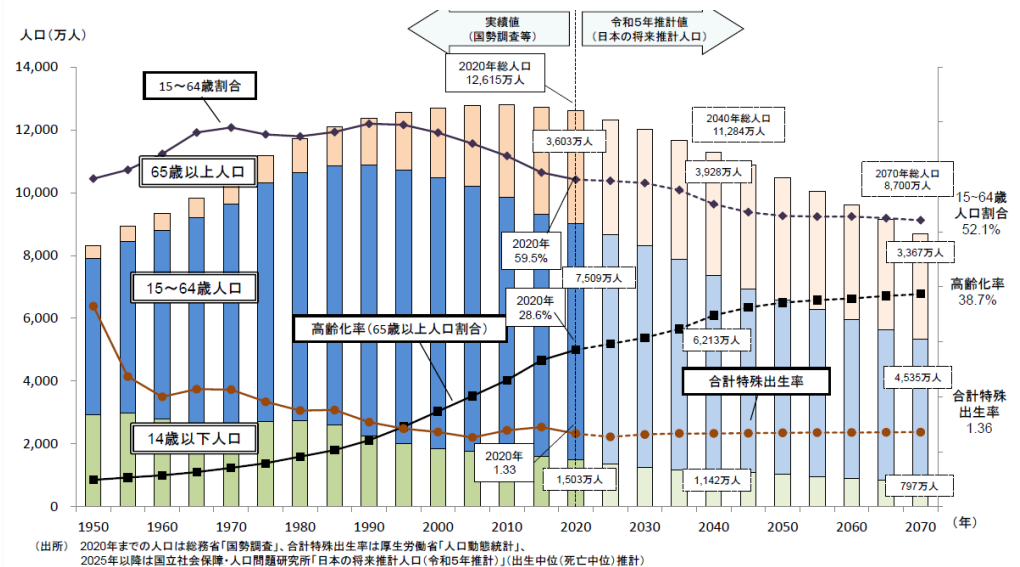
(参考) 働く女性に関する日本の状況

就業者に占める女性の割合は諸外国に比べて遜色ない一方
管理職に占める女性の割合は著しく低い



(出典) 労働政策研究・研修機構 (JILPT) 「データブック国際労働比較2025」

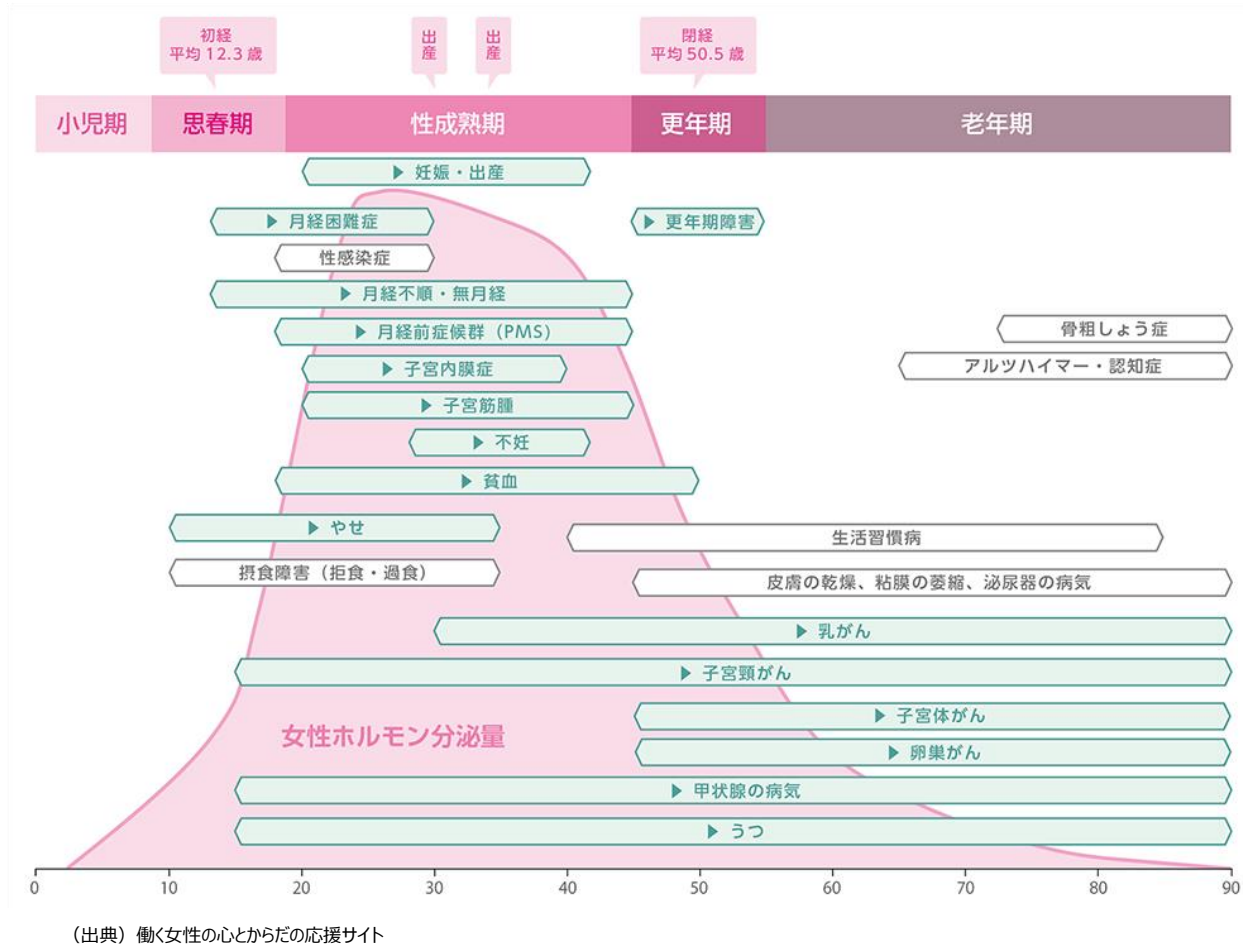
総人口の減少と高齢化等により担い手不足が予測されている



(出典) 厚生労働省HP 我が国の人口について
<https://www.mhlw.go.jp/content/12600000/001594448.pdf>

(参考) 働く女性が抱える健康課題

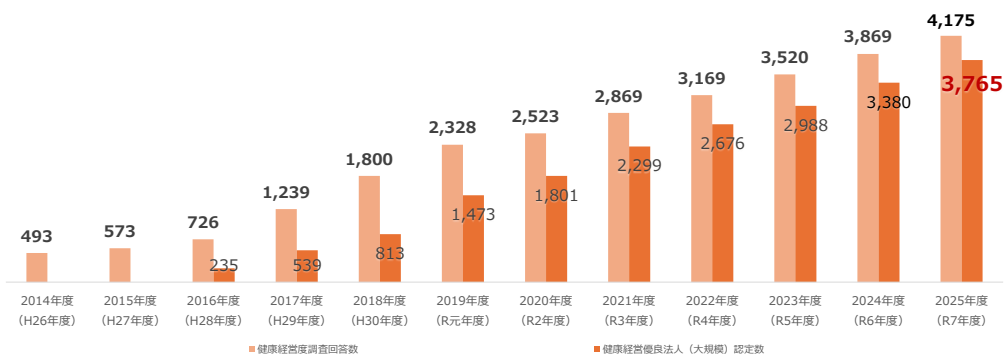
女性のライフステージと女性ホルモン（エストロゲン）の分泌量の変化



- ❑ 妊娠・出産等のライフイベントに伴う体調の変化や、月経・更年期等の女性特有の健康課題は、特定年代だけの問題ではなく、働き続ける中で継続的に発生
- ❑ 各ステージで生じるライフイベントと健康課題を前提にした職場設計や制度が鍵

(参考) 健康経営の推進

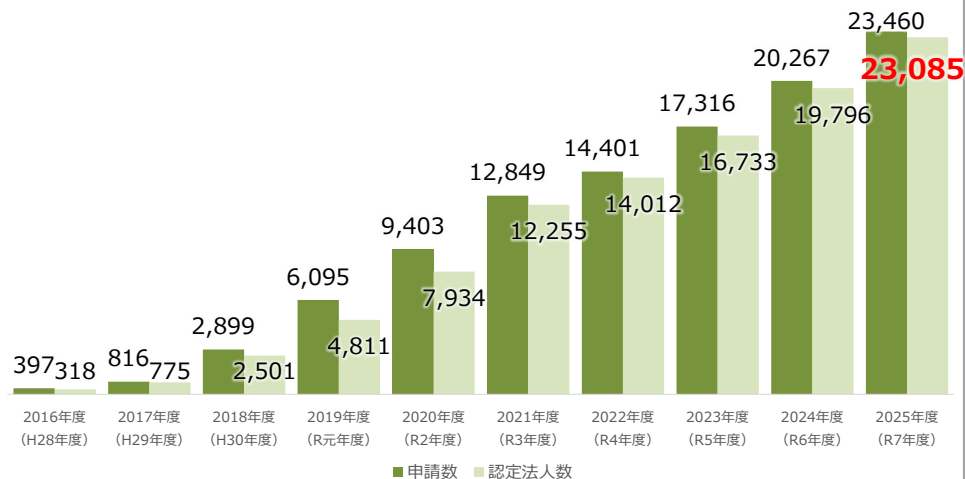
健康経営優良法人（大規模法人部門） 回答・認定状況の推移



※健康経営度調査回答数：令和7年12月31日時点
 ※健康経営優良法人2026（大規模法人部門）認定数 令和8年3月9日時点

(出典) ACTION!健康経営

健康経営優良法人（中小規模法人部門） 申請・認定状況の推移

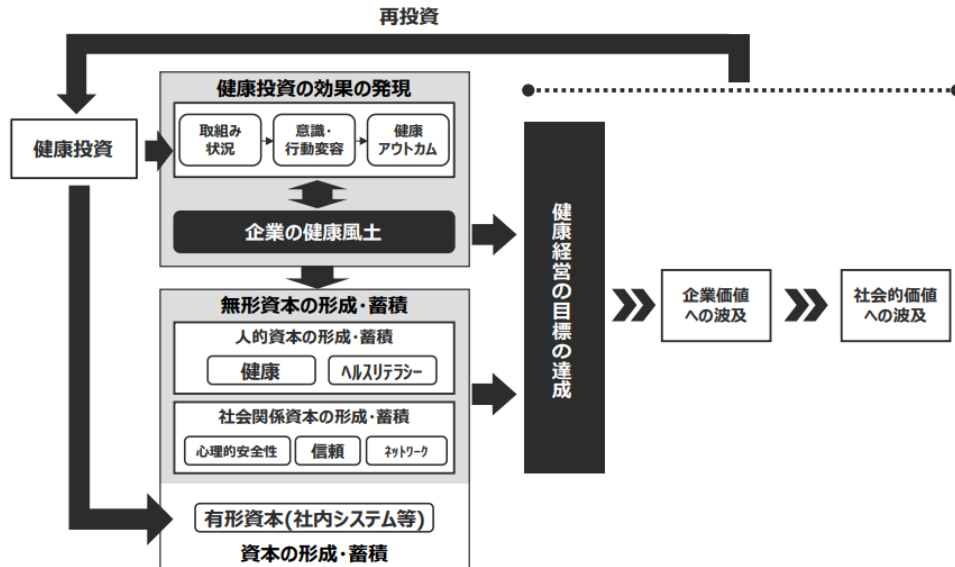


※健康経営優良法人2026（中小規模法人部門）申請数：令和7年12月31日時点
 ※健康経営優良法人2026（中小規模法人部門）認定数 令和8年3月9日時点

- 健康経営とは、従業員の健康保持・増進の取組が、将来的に収益性等を高める投資であるとの考えの下、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること
- 広く社会に浸透・定着が進み、2025年度、健康経営優良法人に認定された法人は約2万7千社にのぼる

(参考) 企業の健康投資による健康課題へのサポート

健康投資による人的資本・社会関係資本の形成・蓄積イメージ



(出典) 健康経営ガイドブック (健康経営優良法人認定事務局編) を基に一部加筆
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/health_management/pdf/002_s01_03.pdf

健康経営度調査スコア上位の企業ほど、高い株価リターンが見込める傾向にある

	健康経営度調査スコア5分位				
	上位 20%	上位 20-40%	上位 40-60%	上位 60-80%	下位 20%
総合スコア	4.35	4.02	3.62	3.87	2.31
1. 経営理念・方針	4.17	4.09	4.06	3.79	1.81
2. 組織体制	4.31	3.88	3.95	3.65	3.29
3. 制度・施策実行	4.44	3.81	3.72	3.82	3.63
4. 評価・改善	4.35	4.06	3.41	3.65	3.88

(出典) ACTION!健康経営 <https://kenko-keiei.jp/about/merit/#merit01>

- 企業は、健康課題に対応する健康投資により、人的資本・社会的資本が形成・蓄積され、ひいては企業価値の向上につながる事が期待される

(参考) 女性特有の健康課題への支援から広がる循環イメージ

人的資本経営から考える、働く女性の健康サポートによる企業・自治体等や社会への好循環

女性活躍施策 (インプット)

企業の実施事項の例

- ・ 福利厚生の一環としてフェムテック製品・サービスを導入
- ・ 全社員・役員を対象として女性特有の健康課題に関する理解促進研修の実施。特に管理職に向けたマネジメント研修 (配慮と評価の両立)
- ・ フレックスタイム、在宅勤務など柔軟な働き方の整備
- ・ 婦人科受診支援、相談窓口の設置

自治体の実施事項の例

- ・ 女性や周囲の人々向けに、女性特有の健康課題やその対応に関する周知・啓発を推進 (企業が各種施策を実施する際の土壌をはぐくむ)
- ・ 地元企業の人事や経営層に対する周知・啓発や、各種施策の導入相談等を実施
- ・ フェムテック等製品・サービスの導入を希望する企業向けの助成
- ・ 自治体で働く女性に対する福利厚生の一環としてフェムテック製品・サービスを導入

アウトカム

働く女性の健康課題のサポート

働く女性:

- ・ 就業継続率向上、キャリア中断の回避
- ・ 心理的安全性の向上、生産性の安定



管理職:

- ・ 部下のコンディションを前提としたマネジメント力向上



企業・自治体等の活性化 価値の向上

企業:

- ・ 組織活力向上、生産性向上
- ・ 採用競争力の強化 (優秀人材の獲得)
- ・ 投資家・金融機関からの評価向上



自治体:

- ・ 地域企業の持続可能性向上
- ・ 働きやすい地域としてのブランド向上

地域・社会への好循環の波及

健康寿命の延伸:

- ・ 早期受診・早期治療の促進
- ・ 重症化予防・慢性化防止
- ・ 医療・介護負担の抑制

ウェルビーイングの実現:

- ・ 心身の安定によるQOL向上
- ・ 家庭・地域への好影響
- ・ 健康を重視する社会文化の醸成

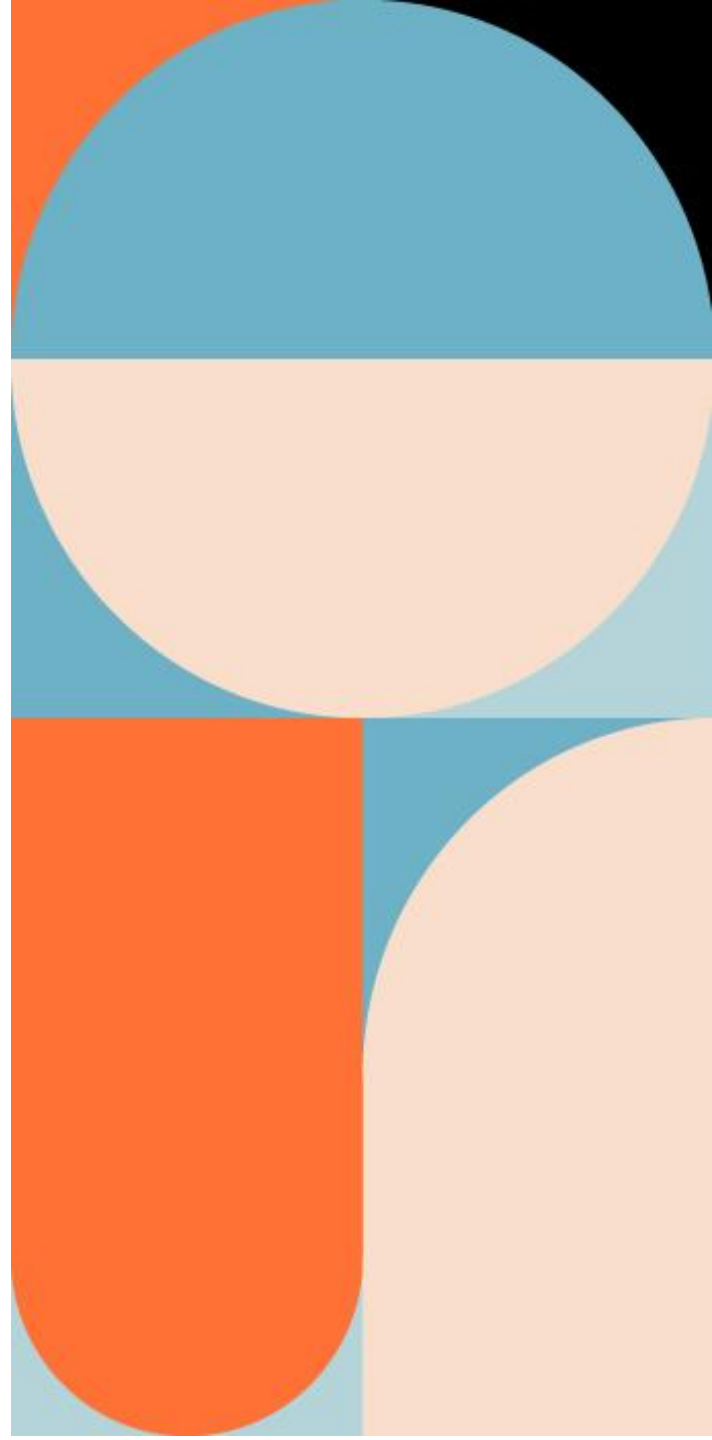


労働人口の維持・拡大:

- ・ 離職防止・就労継続率向上
- ・ 潜在労働力の活用人材不足の緩和

- 女性特有の健康課題について、企業の福利厚生や職場環境整備として投資を進めることで、働く女性の就業継続や生産性向上につながり、その効果が企業等の活性化、さらには地域・社会全体へ広がっていく好循環が期待される

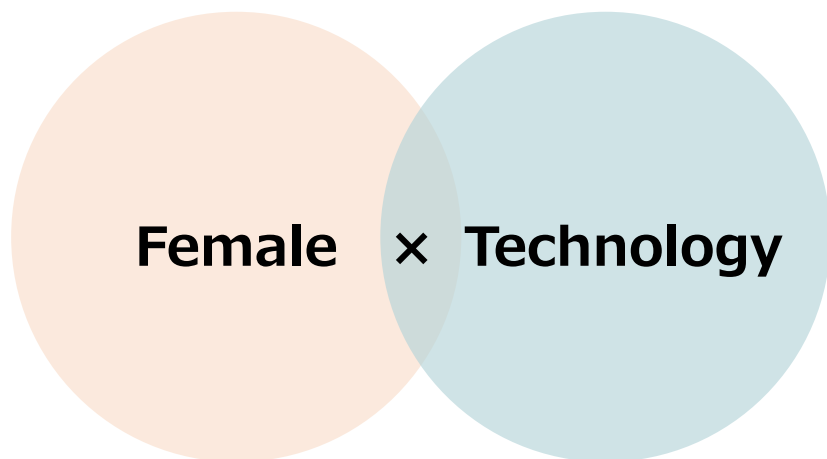
2 フェムテックとは



2 フェムテックとは

- 「フェムテック」とは、Female（女性）とTechnology（技術）からなる造語で、女性特有の健康課題について、先進的な技術を用いて対応する製品・サービスを指します。
- 国内外で開発・提供が進んでおり、世界のフェムテック市場の規模は2034年に411億ドル超規模※と予測されています。
- 女性特有の健康課題による労働損失等の経済損失は、社会全体で約3.4兆円と推計されている中、フェムテックの活用が女性特有の健康課題への対応策の一つとして期待されています。

フェムテック (Femtech)



女性特有の健康課題による社会全体の経済損失

	女性特有			男女双方 ^{※3}
	月経 随伴症	更年期 症状	婦人科 がん ^{※2}	不妊治療
経済損失計 (A+B) (年間)^{※1}	約0.6兆	1.9兆	0.6兆	0.3兆
計3.4兆円				
A うち労働生産性 損失総額	約5,700億円	約17,200億円	約5,900億円	約2,600億円
欠勤	約1,200億円	約1,600億円	約1,100億円	約400億円
パフォーマンス低下	約4,500億円	約5,600億円	約150億円	約50億円
離職	—	約10,000億円	約1,600億円	約2,200億円
休職	—	—	約3,000億円	—
B うち追加採用 活動にかかる費用	—	約1,500億円	約500億円	約340億円

(出典) 「女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について」(令和6年2月 経済産業省 ヘルスクア産業課)

※ (出典) Fortune Business Insights

<https://www.fortunebusinessinsights.com/jp/%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%A0%E3%83%86%E3%83%83%E3%82%AF%E5%B8%82%E5%A0%B4-107413>

② フェムテックとは：フェムテック・フェムケア製品・サービスの類型マップ

➤ テーマとなる健康課題×提供類型に応じて様々な製品・サービスが開発、提供されています。

■ : フェムテック実証事業採択実績のある製品・サービス
 ■ : 採択以外の主な製品・サービス

健康課題	類型	知識向上	意識向上	セルフケア向上			プロケア
		ヘルスリテラシー (教育・研修)	トラッキング・モニタリング	セルフケア提案	症状介入	フェムケア	オンライン健康相談
月経・PMS		ウェアラブルデバイスによる基礎体温等測定 + 研修等 月経痛体験デバイスを用いた研修 アスリート向けセルフケア研修	ウェアラブルデバイスによる痛みの緩和等 月経周期記録・排卵予測アプリ	マインドフルネス + 月経痛予測		月経カップ 吸水ショーツ ナプキン配布デバイス	オンライン診療・処方 (ピル・漢方等) 低周波治療デバイス
妊娠・不妊		研修 (オンライン相談等領域も含む)	子宮頸管粘液モニタリングによる妊活サポート 遠隔胎児/在宅妊婦モニタリング 妊娠期体調記録・管理	健康データ解析・ケア提案 + 排卵予測 + 産後ケア		カップルカウンセリング 妊活相談 妊婦相談	プレコン健診 医療機関データ連携
産後ケア			骨盤底筋トレーニングサポート機器		デリケートゾーンケア用オイル・ソープ	産後相談 (母体、産後うつ等)	
更年期			症状記録・解析・セルフケア提案 マインドフルネス 睡眠計測・セルフケア		尿漏れ検知機器	更年期相談	オンライン診療 更年期症状や甲状腺疾患の識別疾患
婦人科疾患						乳房再建後の専用ブラジャー 法人向け福利厚生・健康経営支援プラットフォーム (点線内)	検査・診断サービス

(出典) フェムテック実証事業の採択実績のある製品・サービスや、採択以外の主な製品・サービスをフェムテック実証事業事務局にて整理

2 フェムテックとは：製品・サービスの例

➤ フェムテックの製品やサービスの例（※）を紹介します。

（※）経済産業省が令和3年度～令和7年度に実施したフェムテック等サポートサービス実証事業で実施した事業から一部抜粋

株式会社LIFEM（採択時：丸紅株式会社）

ルナルナ オフィス

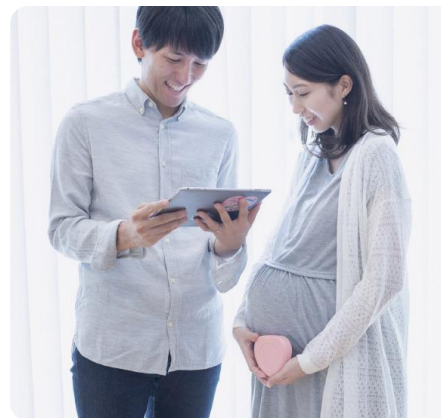


概要 #総合サービス

- ・入社からリタイアまで幅広いライフステージの働く女性の健康課題と職場環境の改善を支援する法人向け総合サービス。
- ・職場アセスメントから、セミナー、オンライン診療の機会提供、専門家監修の効果測定手法を用いて人事部・健保組合等の為の導入効果の可視化・検証のサポート。

メロディ・インターナショナル株式会社

遠隔胎児／在宅妊婦モニタリング



概要 #妊娠 #遠隔診療

- ・小型モバイル胎児モニターを活用した、出張妊婦健診による遠隔胎児モニタリング、在宅妊婦モニタリングを通じた、産科過疎地域の格差解消と女性の働き方改革支援。
- ・また切迫早産などでの長期入院を回避し、妊婦とその家族の経済的精神的負担を緩和。

大阪ヒートクール株式会社

ピリオノイド



概要 #生理痛体験 #研修

- ・“生理痛VR体験デバイス”はEMS技術による腹筋刺激を使用し、生理痛を疑似的に再現。
- ・男性や生理痛の苦しさを共有できなかった女性でも生理痛の感覚を経験し理解する機会を提供。
- ・デバイスに加えて対話を盛り込んだ研修を実施。

シャープ株式会社

サニタリプロダクトディスペンサー



概要 #月経 #生理用品配布

- ・会社や学校、公共施設の利用者に向けて生理用品を提供するための「生理用ナプキンIoTディスペンサー」。アプリ認証不要で、急な生理で困った際に誰でもすぐ利用できる点が特長。
- ・時間制限で大量持ち去りをやさしく防ぐ機能や、IoT技術で在庫や利用状況をセンシングし運用をサポートする機能も搭載。

2 フェムテックとは：製品・サービスの例

パナソニック株式会社 暮らしアライアンス社 体調ナビゲーションサービスRizMo



概要 #総合サービス

- ・自分自身で体調をコントロールできるようにサポートする「体調ナビゲーションサービスRizMo」と、「オンライン健康相談サービス」を提供。
- ・あわせて**基礎知識向上のためのセミナー動画の配信**、および職場での心理的安全性を確保するワークショップを実施。

株式会社SympaFit SympaFit for Mom



概要 #妊活 #排卵日予測

- ・血糖データで女性ホルモンをモニタリングし、プレコンセプションケアのサポート。
- ・血糖値データから**排卵日を数日前から高精度に予測**する技術を活用し、ストレスを可視化することによって、自然妊娠の確率を上げるための血糖値モニタリングサービス。

HerLifeLab株式会社 Vivalle



概要 #オンライン診療 #更年期

- ・更年期専門のオンライン婦人科診療サービス。
- ・①AIチャットボットによる**プレカウンセリング**、②**症状トラッキングアプリ**を活用した治療効果の可視化を実施。
- ・予約から診療までをオンラインで完結でき、薬は自宅に配送されるため、通院の負担なく利用可。

株式会社JMDC yulalance×cotree for women



概要 #月経・PMS #相談

- ・健診データ等を活用した**セルフケアアドバイス&カウンセリング**サービスにより、働く女性の月経・PMS症状の改善をサポート。
- ・医療ビッグデータから「なりやすい症状」や「症状に合ったアドバイス」をパーソナライズして提供。
- ・女性特有のホルモンのゆらぎからくるメンタル不調を含め、**心理専門家がオンラインカウンセリング**。

② フェムテックとは：製品・サービスの例

株式会社ninpath

オンライン専門家相談サービス



概要

#相談

#不妊治療

- メンタルの落ち込み、カップル同士や周囲との人間関係やコミュニケーション方法、不妊治療中、不妊治療前後の様々な困りごとを**不妊治療の実情を熟知した心理の専門家に相談可能。**
- 従業員向けセミナーや役職者研修・オンライン相談サービスの提供等を通じて、ライフプランとキャリアの両立を支援。

Carefull株式会社

Carefull



概要

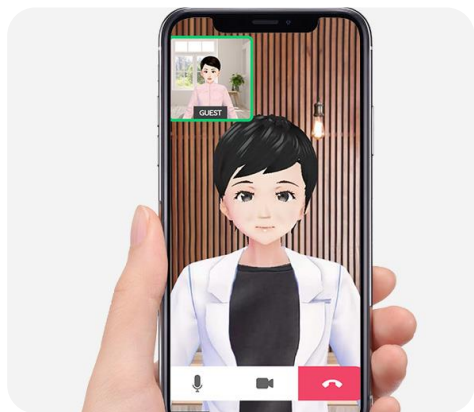
#ヘルスリテラシー

#WS

- 従業員の健康管理を支援し、働きやすい職場環境を実現するための研修・福利厚生サービス。**ライフステージごとの悩みに対応した体験型ワークショップ**を展開。
- 従業員の理解を深め、職場での相互理解を促進。企業の人事部門向けには、女性活躍推進や健康経営に関するコンサルティングを提供。

株式会社BRING

flat.



概要

#アバター活用

#健康相談

- アバターを活用して助産師にオンライン健康相談ができるサービス。**実際の顔が映らず、心理的安全性が保たれ、本音で話しやすい環境を提供。**
- 相談内容に合わせ、助産師が身体に関する豆知識やアドバイスを実施。

株式会社Kids Public

産婦人科オンライン



概要

#オンライン相談

#自治体実績

- 産婦人科医や助産師にスマホ等からオンラインで相談できるサービス。
- サービスは①夜間の産婦人科／小児科の医療者相談ができる「夜間相談」、②毎日24時間ウェブサイトからメッセージできる「いつでも相談」、③予約なしで助産師とチャット相談できる「日中助産師相談」を提供。

2 フェムテックとは：製品・サービスの例

株式会社アルプスアルパイン ペリノス



概要 #産後 #骨盤底筋

- **骨盤底筋トレーニング**の継続を理学療法士による指導と、セルフトレーニングをサポートする「ペリノス™」を用いるサービス。
- 筋電センサで骨盤周辺の筋肉の動きを感知し、リアルタイムに力の入れ方や回数をアドバイスできるデバイスで、**運動の継続性向上と効果の最大化**。

Lasiina株式会社 軽失禁パッド装着型センサー

概要 #尿漏れ #更年期



- 女性用吸水ケアパッドに軽失禁用センサーを搭載した検知デバイスを装着することで、**スマートフォン経由で、パッドの吸水量をリアルタイムに監視**。
- 漏れの発生とその量を検知、**交換のタイミングをAIが推定して利用者に通知**。

株式会社ファミワン ファミワン



概要 #専門家セミナー #相談

- 「**オンライン健康相談等による個人のサポート**」と「**専門家によるセミナーを通じたリテラシー向上や風土の醸成**」を提供。
- オンライン相談では、**心理的安全性を確保した環境下で看護師や心理士等の有資格者に相談可能**。
- セミナーでは、**様々なテーマを希望の形に合わせて実施**。

政策研究大学院大学 WaiSE Work

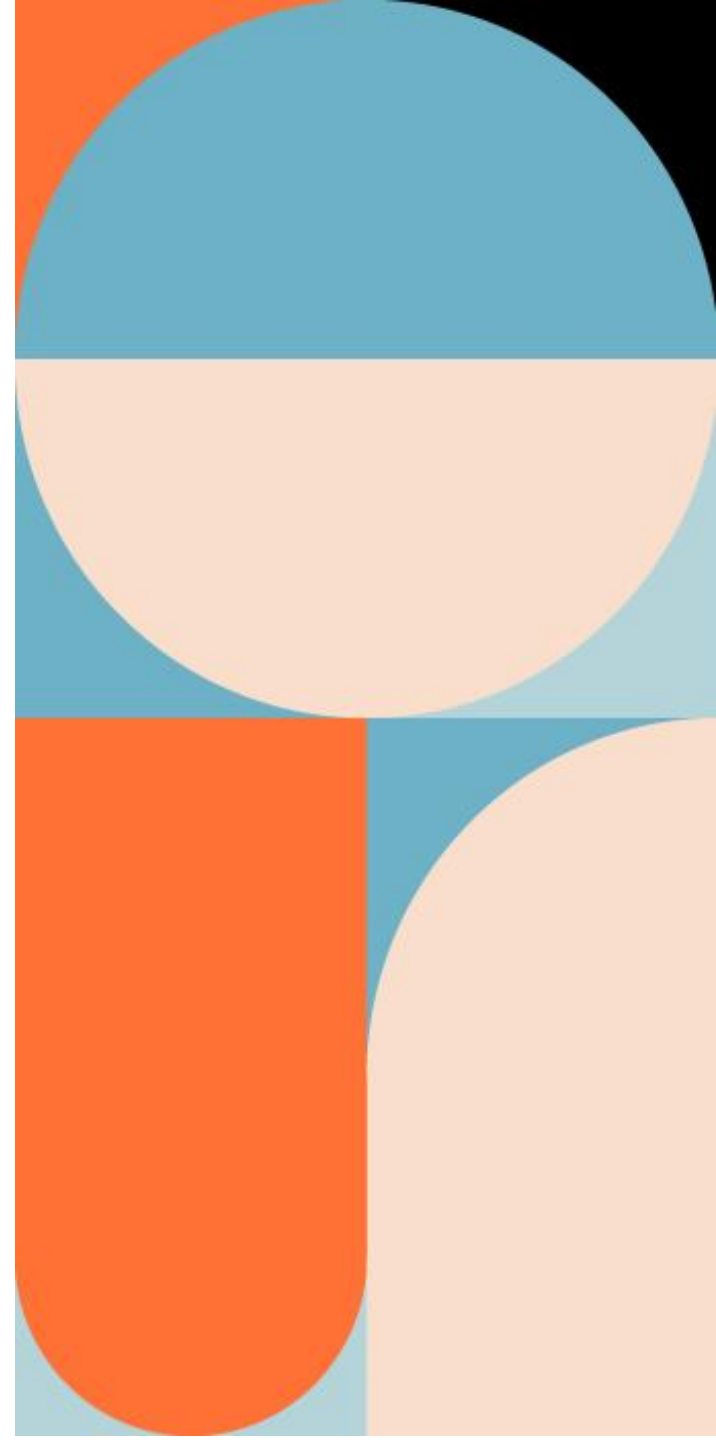
概要 #更年期 #診断支援



- 女性の自覚する多様な症状を的確に把握し、女性に特化したアルゴリズムで、**女性の問診・受診・診断を支援するヘルスケアアプリケーション**。
- 医師主導の開発と、性差医学（ジェンダー医学）と女性専門外来の**10年間の豊富な診療データベース（エビデンス）に裏打ち**。

3

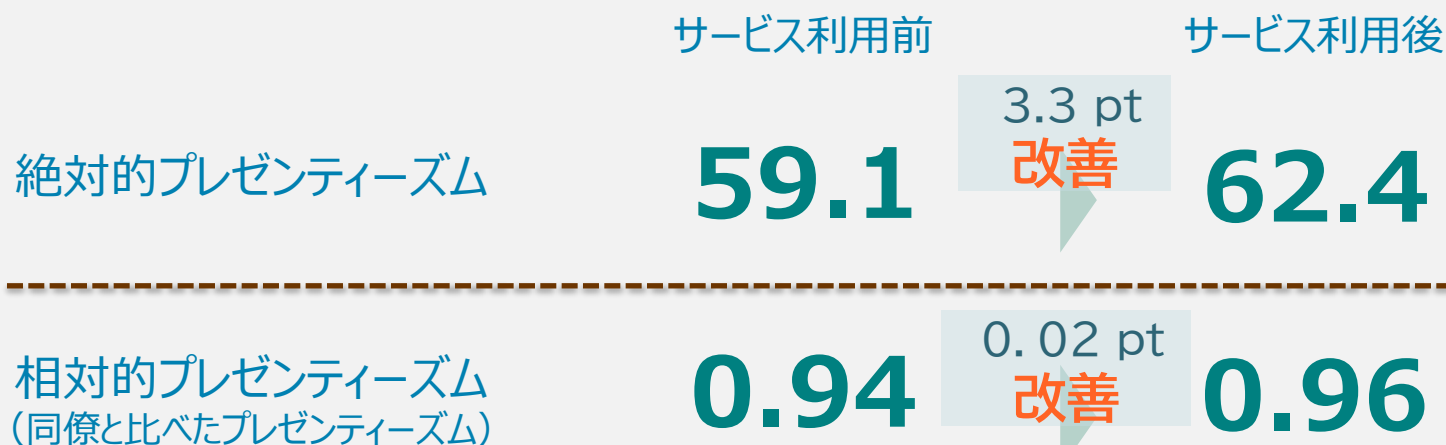
フェムテック導入の意義・効果



3 フェムテック導入による意義・効果

プレゼンティーズムの改善効果

フェムテックサポートサービスの利用により、**プレゼンティーズムが改善**



女性の回答結果
絶対的プレゼンティーズム 事前n=3,816 事後n=3,209
相対的プレゼンティーズム 事前n=3,771 事後n=3,175

(出典) 令和4～7年度フェムテック等サポートサービス実証事業 事業評価指標より

WHO-HPQを用いて評価を行った

絶対的プレゼンティーズム=②×10、相対的プレゼンティーズム=②÷①

- ① 0があなたの仕事において誰でも達成できるような仕事のパフォーマンス、10がもっとも優れた勤務者のパフォーマンスとした0から10までの尺度上で、あなたの仕事と似た仕事において多くの勤務者の普段のパフォーマンスをあなたはどのように評価しますか？
- ② 同じ0から10までの尺度上で、過去4週間(28日間)の間のあなたの勤務日におけるあなたの総合的なパフォーマンスをあなたはどのように評価しますか？

3 フェムテック導入による意義・効果

年代別プレゼンティーズムの改善

フェムテックサポートサービスの利用により、**プレゼンティーズムが改善**

絶対的プレゼンティーズムの改善

	サービス利用前		サービス利用後
<u>20歳代</u>	55.5	▶	59.9
<u>30歳代</u>	55.8	▶	59.3
<u>40歳代</u>	61.8	▶	63.8
<u>50歳代</u>	64.1	▶	67.6
<u>60歳代</u>	66.1	▶	68.7

相対的プレゼンティーズムの改善

	サービス利用前		サービス利用後
<u>20歳代</u>	0.88	▶	0.91
<u>30歳代</u>	0.90	▶	0.92
<u>40歳代</u>	0.97	▶	0.99
<u>50歳代</u>	1.00	▶	1.01
<u>60歳代</u>	1.04	▶	1.05

(出典) 令和4～7年度フェムテック等サポートサービス実証事業 事業評価指標より、女性の集計結果

WHO-HPQを用いて評価を行った

絶対的プレゼンティーズム=②×10、相対的プレゼンティーズム=②÷①

① 0があなたの仕事において誰でも達成できるような仕事のパフォーマンス、10がもっとも優れた勤務者のパフォーマンスとした0から10までの尺度上で、あなたの仕事と似た仕事において多くの勤務者の普段のパフォーマンスをあなたはどのように評価しますか？

② 同じ0から10までの尺度上で、過去4週間(28日間)の間のあなたの勤務日におけるあなたの総合的なパフォーマンスをあなたはどのように評価しますか？

3 フェムテック導入による意義・効果

サービス領域別プレゼンティーズムの改善

フェムテックサポートサービスの利用により、**プレゼンティーズムが改善**

絶対的プレゼンティーズムの改善

	サービス利用前		サービス利用後
<u>月経・PMS</u>	58.1	▶	61.7
<u>不妊・妊娠</u>	57.5	▶	60.4
<u>更年期</u>	61.1	▶	63.9
<u>婦人科疾患</u>	60.0	▶	63.7
<u>ヘルスリテラシー</u>	59.1	▶	62.8

相対的プレゼンティーズムの改善

	サービス利用前		サービス利用後
<u>月経・PMS</u>	0.93	▶	0.95
<u>不妊・妊娠</u>	0.93	▶	0.94
<u>更年期</u>	0.96	▶	0.97
<u>婦人科疾患</u>	0.95	▶	0.96
<u>ヘルスリテラシー</u>	0.94	▶	0.96

(出典) 令和4～7年度フェムテック等サポートサービス実証事業 事業評価指標より、女性の集計結果

WHO-HPQを用いて評価を行った

絶対的プレゼンティーズム=②×10、相対的プレゼンティーズム=②÷①

① 0があなたの仕事において誰でも達成できるような仕事のパフォーマンス、10がもっとも優れた勤務者のパフォーマンスとした0から10までの尺度上で、あなたの仕事と似た仕事において多くの勤務者の普段のパフォーマンスをあなたはどのように評価しますか？

② 同じ0から10までの尺度上で、過去4週間(28日間)の間のあなたの勤務日におけるあなたの総合的なパフォーマンスをあなたはどのように評価しますか？

3 フェムテック導入による意義・効果

企業価値向上につながる副次的効果

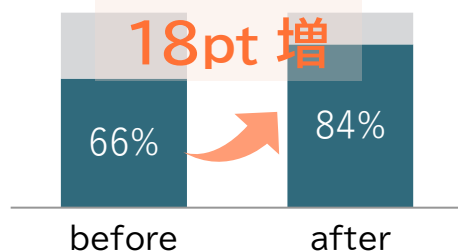
「できる」と回答した者の割合

「できない」と回答した者の割合

女性特有の健康課題に関する行動変容

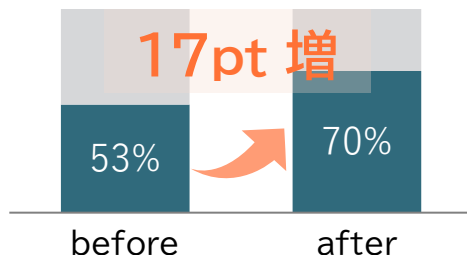


適切な情報選択ができる



サービスを利用した男女1,479名の集計

適切なケア選択ができる

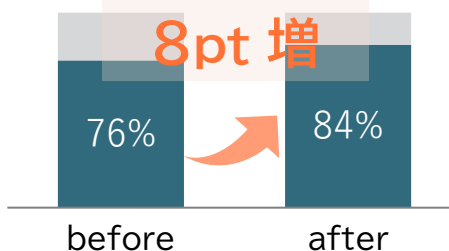


サービスを利用した女性981名の集計

キャリアイメージや自信の高まり

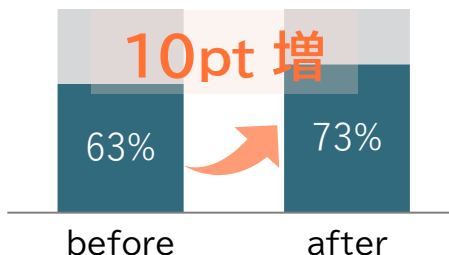


健康課題があっても 目標をもって前向きに働ける



サービスを利用した女性988名の集計

健康課題があっても 自己管理によりキャリア形成できる

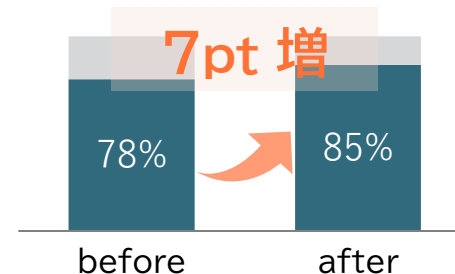


サービスを利用した女性993名の集計

働きやすい職場環境の醸成



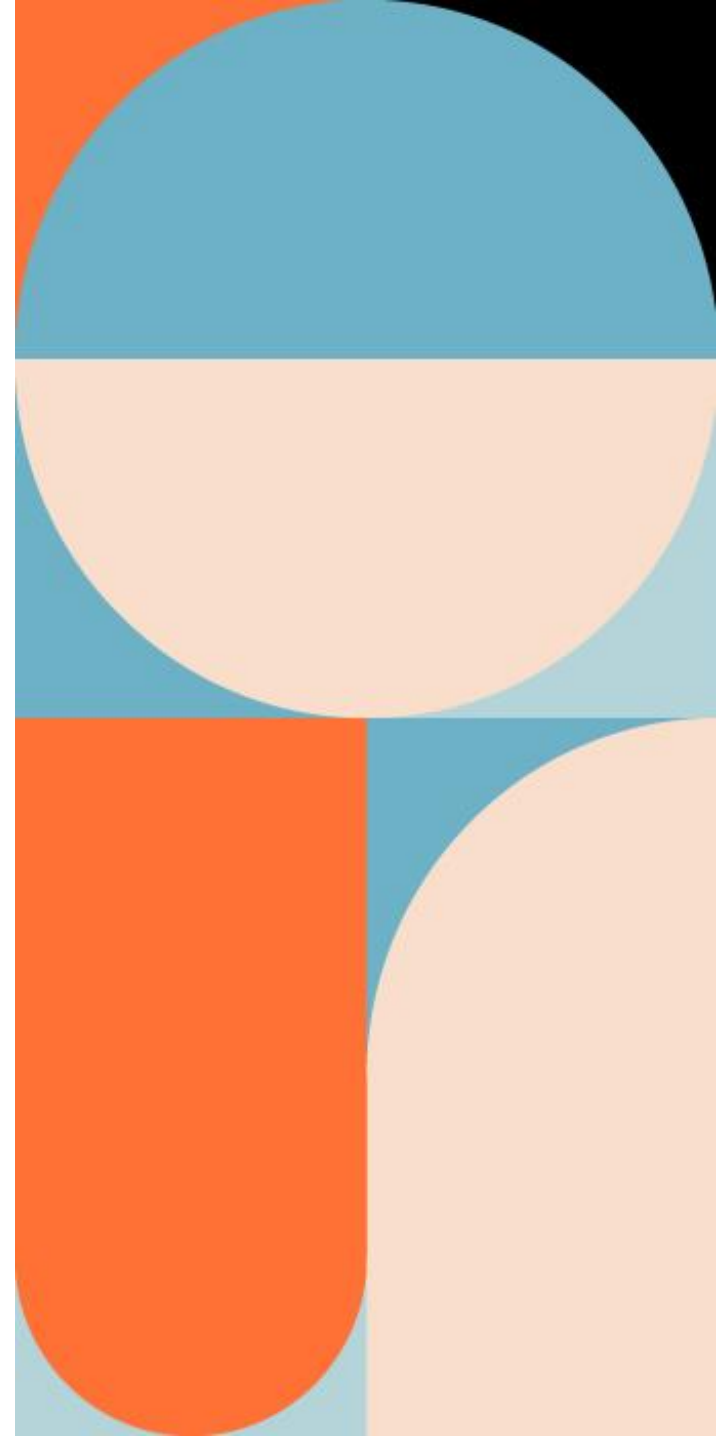
同僚に適切な配慮・支援ができる



サービスを利用した男女1,414名の集計

4

導入に向けた検討・ポイント



4 導入に向けた検討・ポイント：導入に向けたステップ

- フェムテック製品・サービスを福利厚生等の一環として導入するにあたっては、「課題の認識」から始まり、「試験導入・評価」に至るまでの**複数のステップを段階的に進めていくことが重要**です。これらのステップを順に実践することで、自社の課題や組織特性に合った形で、無理なく導入を進めることが可能となります。
- 各組織の状況により、その進め方は大きく異なります。また、各ステップは1回きりで終わるものではなく、**検討の過程で前のステップに適宜戻り、繰り返しながら導入を進めることが重要**です。



4 導入に向けた検討・ポイント：導入に向けたステップ

STEP 1 課題の認識



組織における女性特有の健康課題が、業務やキャリア、ひいては経営に与える影響を理解した上で、アンケート等の調査を通じて自社の実態や従業員の声を把握することが、フェムテック導入検討の第一歩となります。

GOAL

- ✓ 担当者／検討チームメンバーが、女性特有の健康課題が組織に与える影響について理解している。
- ✓ 客観的な調査・分析等によって、女性従業員の声・困りごとが収集・整理されている。

どのような状況・課題が収集され得るか

(例)

- 生理痛が強く出るタイプなので、生理期間中は思ったような仕事の成果を出せずに悩んでいるが、男性の上司にどう相談したらいいかわからない
- 妊活をしたいけれど、今の勤務形態だと通院が現実的ではないので退職も考えている
- 産後、体調に不安があり職場復帰に自信がない
- 仕事はやりがいがあるけれど、更年期症状が出るようになったので昇進のオファーは辞退した

POINT

▶参考事例 P34,40,42

- 国が公表している女性特有の健康課題に関する資料等を確認し、組織に与える影響について理解しましょう。

参考 経済産業省
「女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について」

- アンケート調査等を実施し、社内の男性・女性が感じている健康課題と業務やキャリアへの影響を調査しましょう。
- 状況把握やアンケート調査設計に向けた仮説立てに、既に実施した調査データなどが活用できる場合もあるため、既存データの見直しを行うことも有効です。
- 現状把握に活用できるフェムテックサービスもあります。これらの活用も検討してみましょう。

参考 ▶ P48～53「採択事業者一覧」を参照
▶ 経済産業省
「フェムテック等サポートサービス実証事業成果一覧」
「女性の健康サービス提供企業リスト」

4 導入に向けた検討・ポイント：導入に向けたステップ

STEP
2

方針・ 施策検討



既存の制度・施策を点検し、Step1で明らかになった健康課題への対応状況を整理します。**課題の優先順位を定めた上で、フェムテックを含む支援施策全体を検討し、関係部門と導入方針を協議します。**

GOAL

- ✓ 自組織として優先的に取り組む女性特有の健康課題が特定されている。
 - Step1で把握した実態を踏まえ、対応すべき健康課題が明確になっている。
 - 既存の人事制度・福利厚生・他施策との重複を整理した上で選定されている。

なぜこのタイミングで関係部門との協議を行うのか

Step2は、課題認識を踏まえ、組織として取り組む方向性を定める段階です。この時点で経営層や人事、健康管理部門と協議を行うことで、健康課題を経営・人事の視点で共有しやすくなります。

関係者とあらかじめ目的や前提条件の認識をそろえておくことで、次の製品・サービス選定をスムーズに進めることができる。



POINT

- **既存施策の棚卸しから始めましょう。**人事制度、福利厚生、健康管理施策などを一覧化し、Step1で把握した健康課題にどの程度対応しているのかを整理しましょう。
- **課題は“広げすぎず、優先順位を付ける”ようにしましょう。**複数の健康課題が挙がる場合は、影響の大きさや対象人数、既存施策との重複を踏まえ、段階的に取り組む順序を決めることが重要です。
- **フェムテックありきにせず、広く検討しましょう。**フェムテックに限らず、人事制度の見直しや既存福利厚生サービスの活用など、女性活躍に資する施策全体を俯瞰した上で位置づけを検討しましょう。検討の結果、フェムテック以外の施策が最適と判断されることもあります。

参考

経済産業省

「健康経営における女性の健康課題に対する取組事例集」

4 導入に向けた検討・ポイント：導入に向けたステップ

STEP
3

製品・
サービス選定



Step2で整理の結果、フェムテック製品・サービスの導入を検討することとなった際、**自組織の課題・状況に適した候補を幅広く調査・比較し、提供内容や導入条件を整理した上で、導入に向けた具体像を明確にします。**

GOAL

- ✓ 導入方針・優先課題を踏まえ、適した製品・サービス候補が複数把握されている。
- ✓ 提供内容、導入モデル、価格帯等について、提供企業への確認を通じて具体像が整理されている。

導入にあたって活用できる自治体等の支援策

一部の自治体では、女性活躍や健康課題対応を目的として、フェムテック等の導入や実証に対する補助・支援を行っています。補助制度の活用可能性も含めて調査することで、導入時の選択肢が広がります。

自治体が導入企業向けに展開した補助金の例

参考

- ▶ 富山県「令和7年度働き方改革・女性活躍サポート事業費補助金」
- ▶ 鳥取県「令和7年度女性活躍に取り組む企業支援補助金」

※記載の内容は令和7年時点の例であり、最新の状況を確認してください。

POINT

▶参考事例 P36,38

- **方針との整合性を軸に候補を整理**しましょう。Step2で定めた健康課題や優先順位に照らし、導入目的に合致する製品・サービスを確認しましょう。機能の多さや話題性だけで選ばないことが重要です。また、一つに決め打ちせず、**複数の製品・サービスを比較**することで、自組織にとっての適合性や留意点が見えやすくなります。
- **製品・サービスの利用対象範囲（女性限定／男女共通）を確認**しましょう。男性が多い組織などでは、女性のみを対象とせず、男性も含めて提供できるサービスを選ぶことで、導入時の理解を得やすくなったり、実際に利用する際の円滑さにつながります。→詳細はSTEP4を参照
- **エビデンスや専門家関与の有無を確認**しましょう。効果検証の実施有無や根拠となるデータ、医師・医療機関等の監修・関与状況を確認し、サービスの信頼性を見極めることが重要です。

参考

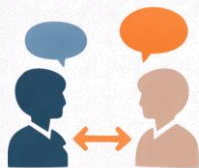
経済産業省

「フェムテック等サポートサービス実証事業成果一覧」
「女性の健康サービス提供企業リスト」

4 導入に向けた検討・ポイント：導入に向けたステップ

STEP
4

組織内
調整



導入後の円滑な運用に向け、製品・サービスの利用対象者に限らず、**利用対象外となる人**（男性や特定の健康課題を持たない女性等）も**含めた情報提供**を行い、取組の背景や目的に対する理解と納得感を組織全体で醸成します。

GOAL

- ✓ 製品・サービス導入の目的や背景、期待される効果について、関係部門や現場を含めて共有されている。
- ✓ 利用対象となる人は、自身にとっての利用意義や活用イメージを理解している。利用対象外となる人も、取組の必要性や位置づけに対する理解が得られている。

“女性だけの施策”と思われなために、何が必要？



一部の社員しか享受できないサービスを、組織のお金を使って導入するのは不公平にはならない？

解決するアイデア

- ▶ 対象を女性だけにせず、周囲の人にも広げる機会とする。正しい健康に関する知識が広がり、相互理解が進むことで「女性だけの施策」という受け止めを避けられる。
- ▶ 特定の人を対象とした福利厚生は、これまでも行われてきたことを伝える。メタボ対策や喫煙対策など、健康課題に応じた施策は一般的です。



POINT

▶ 参考事例 P34,40

- **利用率拡大に向け、トップの巻き込みとコミットメント**を得ましょう。健康施策は短期的な成果が見えにくいいため、経営層自らが取組の意義を理解し、メッセージとして発信することで、社内全体の納得感と参加意欲を高めることが重要です。
- **参加のしやすさを高めるため、案内方法や伝え方を工夫**しましょう。多様な働き方の社員に届くよう、メールに加えてスケジュールシステム、掲示板、朝礼等を活用した案内などを行うことで、施策への認知と参加を促進できます。
- **心理的安全性を前提とした環境設定と丁寧な周知**をしましょう。健康に関する情報はセンシティブであることを踏まえ、安心して参加できる設計とし、申込時を含めて利用者に丁寧に説明することで、実際の利活用につながりやすくなります。

心理的安全性を高める環境設定の例

- ▶ 利用を任意とする
- ▶ 利用していることを周囲に知られない設計とする
- ▶ 個人情報には会社に伝わらない設計にする

4 導入に向けた検討・ポイント：導入に向けたステップ

STEP 5 試験導入 ・評価



小規模な試験導入を行い、利用状況や効果を確認しながら課題を把握しましょう。結果を踏まえて分析を行い、導入拡大や改善に向けた見直しにつなげ、今後の本格導入や別施策の検討などのPDCAに生かすことができます。

GOAL

- ✓ 導入を通じて、利用者本人や周囲の人の満足度や反応、見えてきた課題を把握できている。
- ✓ 人事・総務等の導入担当者が、施策としての評価を整理し、今後の取組方針を判断できている。

評価結果の活かし方

- ✓ 試験導入で得られた結果は、導入の可否を決めるためだけでなく、よりよい施策設計につなげる材料として活用する。
- ✓ 効果が限定的だった場合でも、対象者設定や周知方法、運用の工夫によって改善できる可能性がある。
- ✓ 評価を踏まえ、「やめる／続ける」ではなく「どう改善するか」を検討する視点が重要。



POINT

▶参考事例 P35,41,44

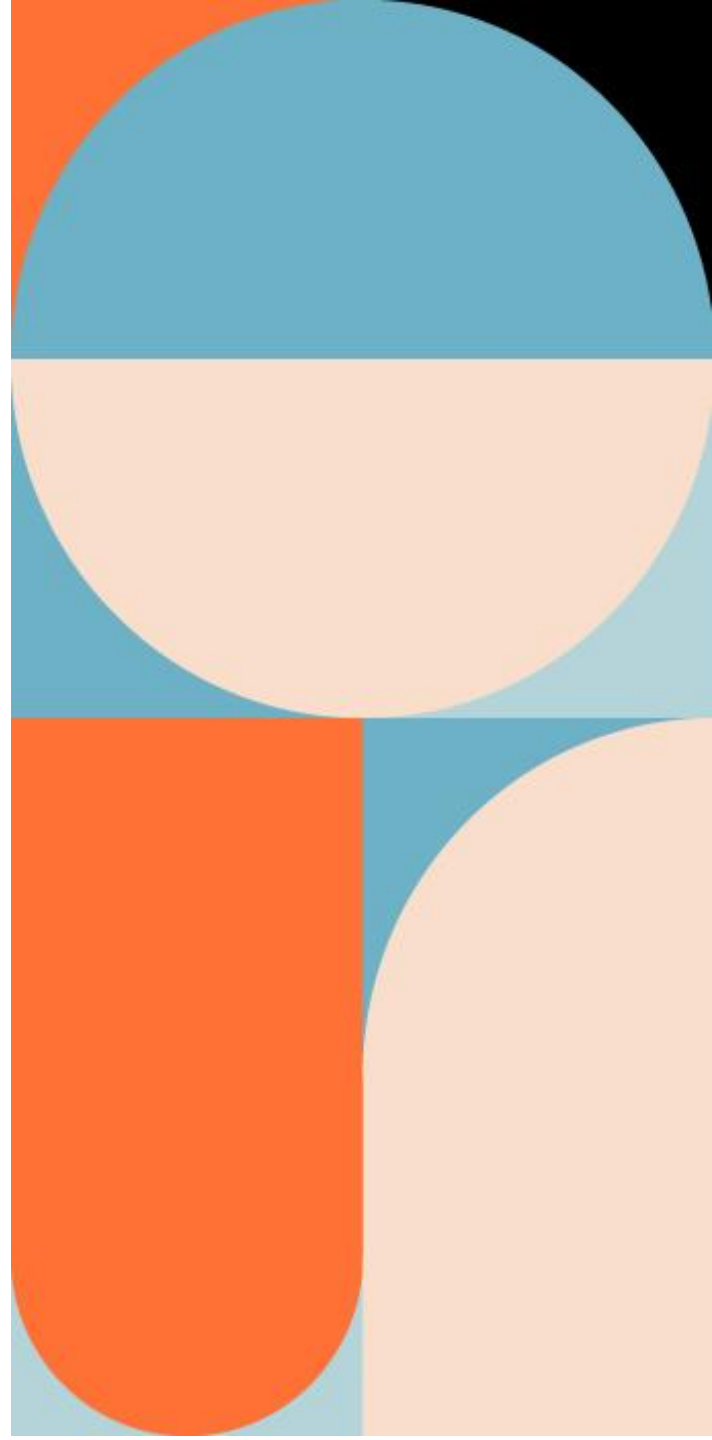
- **小規模・試験的に導入**し、無理のない形で検証できるよう、対象や期間を絞ることで、運用負荷を抑えつつ実態を把握することができます。
- アンケート等で、**利用状況や満足度、感じられた効果を確認**しましょう。利用実態だけでなく、満足度や行動・意識の変化、今後の利用意向などを多面的に調査しましょう。

アンケートの例

- ▶ 業務・パフォーマンスへの影響
 - ・ 体調や健康課題による業務への影響の変化
 - ・ プレゼンティーズムの変化（例：WHO-HPQ等の指標での測定）
- ▶ 満足度・評価
 - ・ サービス全体に対する満足度
 - ・ 「同僚や家族に勧めたいと思うか」といった推奨意向
- ▶ 今後の利用意向
 - ・ 今後も継続して利用したいか
 - ・ 利用頻度を増やしたい／減らしたいと感じるか
- ▶ 利用・未利用の理由
 - ・ 利用した理由（役立った点、使いやすさ等）
 - ・ 利用しなかった理由（時間が取れない、内容が合わない等）

5

導入事例



5 導入事例 一覧

- 経済産業省フェムテック等サポートサービス実証事業で採択された事業者の製品・サービスを導入した企業、医療機関の事例から、導入に向けたステップや効果を紹介します。

企業名	(1) 三菱食品株式会社	(2) InMuSE.合同会社	(3) 国民健康保険小松市民病院
本社所在地	東京都	千葉県流山市	石川県小松市
従業員規模	4,091名 女性従業員比率：31.1% 女性管理職比率：3.8% (2024年度)	4名(2026年3月現在) (女性比率：100%)	— (病床規模：340床)
対応した健康課題	ヘルスリテラシー	産後ケア(骨盤底筋トレーニング)	妊娠
業種	食品卸売業	ヘルスケア事業	医療機関
導入サービス	<p>提供事業者：株式会社BRING</p> <p>サービス名：flat.</p> <p>サービス概要： アバターを活用して助産師にオンライン健康相談ができるサービス。 実際の顔が映らず、心理的安全性が保たれ、本音で話しやすいのが特徴。また専用アプリや会員登録は不要で、お手持ちのスマホ・PCから予約時間に専用URLにアクセスするだけで利用できる。相談内容に合わせ、助産師が身体に関する豆知識やアドバイスをを行う。病院に行く時間が取れない、行くことに抵抗がある、行くほどの症状ではないが気になる等あらゆる方に情報提供可能なため、利用者の健康への関心やリテラシー向上にも寄与できる。</p>	<p>提供事業者：アルプスアルパイン株式会社</p> <p>サービス名：ペリノス</p> <p>サービス概要： 骨盤底筋トレーニングの継続を理学療法士による指導と、セルフトレーニングをサポートする「ペリノス™」を用いるサービス。 ペリノスは、筋電センサで骨盤周辺の筋肉の動きを感知し、リアルタイムに力の入れ方や回数をお知らせできるデバイスである。トレーニング時に骨盤周辺に装着し、筋肉の動きをリアルタイムにフィードバックできる。女性に多いとされる骨盤底筋群が弱ることで引き起こされる体の不調や悩みを解消するために、運動の継続性向上と効果の最大化を目指す。</p>	<p>提供事業者：メロディ・インターナショナル株式会社</p> <p>サービス名：iCGT</p> <p>サービス概要：小型モバイル胎児モニターを活用した、出張妊婦健診による遠隔胎児モニタリング、在宅妊婦モニタリングを通じた、産科過疎地域の格差解消と女性の働き方改革支援を行うサービス。 また切迫早産などでの長期入院を回避し、妊婦とその家族の経済的・精神的負担を緩和する。妊婦自身もお腹の張りの状態を自覚しやすくなり、心拍が聞こえて「赤ちゃんが元気」ということがわかることで安心に繋げる。</p>

5 導入事例 一覧

企業名	(4) 株式会社ディー・エヌ・エー	(5) 明治安田生命保険相互会社	(6) パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社
本社所在地	東京都	東京都	東京都
従業員規模	1,326人 (女性従業員比率25.5%)	47,216人 (女性従業員比率約9割)	5,100名 (うち、実証事業を実施したビューティ・パーソナルケア事業部：1,100名)
対応した健康課題	月経・PMS、更年期	ヘルスリテラシー他	ヘルスリテラシー他
業種	情報・通信業	保険業	家電製造業
導入サービス	<p>提供事業者：政策研究大学院大学</p> <p>サービス名：WaiSE Work</p> <p>サービス概要： 女性のライフステージに応じた様々な心身の症状を把握し、必要に応じた受診やセルフケアをお勧めする性差医療アプリWaiSE。令和5年度は女性のコンディションを見える化、ヘルスリテラシーを向上する性差医療アプリ「WaiSE」を進化させた「WaiSE Work」を実証。更年期や月経随伴等の症状と他の疾患の症状の見分けが困難という課題を踏まえ、健康経営、セルフケア等に活用できWaiSE Workサービスを検証した。アプリではさらに、可能性がある病気等を示し、医療機関や健診の受診を支援する。</p>	<p>提供事業者：TOPPANエッジ株式会社</p> <p>サービス名：わたしの温度</p> <p>サービス概要： つけて寝るだけで誰でも、手軽に、簡単に高温期と低温期といった女性特有の温度リズムを自動計測できるヘルスケアデバイス&アプリ。あわせて行動変容研修、オンライン医療相談サービス（任意）も提供。 実証では、企業における月経随伴症状に伴う労働損失への影響を可視化を目指し、ヘルスケアIoTサービス「わたしの温度」を用いた実証や、各種セミナー等の複合プログラムを実施。労働パフォーマンスの分析・効果測定と女性従業員の労働パフォーマンス改善により、「導入費用」<「労働損失削減効果額」となるエビデンス獲得に向け検証を行った。</p>	<p>提供事業者：株式会社carefull (旧株式会社nanoni)</p> <p>サービス名：crefull</p> <p>サービス概要： フェムテック福利厚生プラットフォーム「carefull」で以下の機能・サービスを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー ・匿名コミュニティ ・従業員特典 ・コンサルティングミーティング <p>企業が女性特有の健康課題に取り組みやすくするため、人的資本経営に及ぼす影響を分析することで、企業によるフェムテック活用の促進を目指す実証を実施。具体的にはフェムテック福利厚生プラットフォーム「carefull」を提供し、有用性を検証した。</p>

5. 導入事例

(1) 三菱食品株式会社

従業員がいきいきと活躍できる機会提供の一環としてフェムテックを提供。仮説検証型で利用や納得感醸成にも取り組む。

導入前：アンケート調査で社員の関心傾向を把握し、実証に向けた仮説を設計

三菱食品では、従来より従業員の健康増進サポートを推進。より体系的・継続的な取組へと移行する必要性を感じており、フェムテックサービスの導入の検討に至りました。

三菱食品は、従来男性社員の比率が高い組織であり、近年女性比率は上昇しているものの、上司や管理職が男性であるケースも多く、**女性特有の健康課題について理解が十分に広がっていない可能性**があるとの仮説を持っていました。実際に、2021年に女性の健康に関する社内セミナーを試行しましたが、参加率は低調でした。毎年実施している健康に関するアンケートにおいても、女性の健康に関する設問への関心は高くなかったといった結果が見られました。これらを通じて、**女性自身も正しいヘルスリテラシーを十分に持っていないのではないか**という課題認識に至りました。これを踏まえ、男性、女性の双方がヘルスリテラシーを高めることが組織にとっても良い効果が期待できると考え、実際の導入に向けた検討を進めました。

Step1:課題の認識

実態調査で課題を把握→対応する課題の仮説を持つ



株式会社BRINGが提供する「flat.」

導入検討：健康施策は即効性はないが効果があることを社内で共有

こうした背景のもと、2022年には、女性の健康に関するリテラシー向上を目的とした新たな取組を検討しました。その際に着目したのが、BRINGの**アバターを活用した相談サービス**です。BRINGとは以前より営業部門が取引をしており、紹介をいただきました。サービス説明の際、アバターを介した匿名性の高いコミュニケーションが心理的ハードルを下げることに有効である点に魅力を感じました。性や身体に関するテーマは、依然としてタブー視されやすく、対面での相談や実名での参加に心理的ハードルがあることを踏まえ、アバターを介した形式であれば、利用しやすいのではないかと期待し、導入を検討しました。

社内調整の面では、経営層からの理解は比較的得やすい環境にありました。ただし女性特有の健康課題というテーマについては改めて施策の効果や意義を丁寧に説明を行い、特に、**健康増進に関する施策は短期的に成果が出るものではない**という点を共有し、中長期的な視点での理解を得ることを意識しました。

Step4:組織内調整

社内で上層部も含めた課題とゴールの認識共有を行う

5. 導入事例

(1) 三菱食品株式会社

導入中：セミナーに参加しやすい時間帯を検討・試行。今後のPDCAに活用

導入にあたっては、BRINGが提供するサービスが複数テーマ（例：月経、産前産後、リテラシー、更年期等）をセットのセミナーを提供している点も評価されました。従来、三菱食品が導入したセミナーでは、人事担当者がテーマ設定を一から考えており、包括的な設定となっていないのではないかといった懸念や、検討負担の大きさがあり、BRINGのパッケージ形式が課題の解消につながりました。一方で、運営面では試行錯誤もありました。就業時間中の実施については、性に関するセミナーを「勤務時間中に視聴することへの心理的抵抗」が生じる可能性を懸念し、夜間開催としました。結果として、家庭や育児との両立の観点から参加者数は少数にとどまりましたが、参加者からは「有意義だった」との声が寄せられました。またPDCAの一環として、今後のセミナー開催の際の時間帯検討に活かせる経験となりました。

また、これらの取組を通じて、人事部門としても**各テーマにどうアプローチすべきかの気づき**を得ることができました。

Step5:試験導入・評価

試験的な導入を通じて、導入形態や規模を検証。PDCAを回し、今後の施策に活かす

今後：導入経験を踏まえ、リテラシー向上等の新プロジェクトを推進予定

三菱食品では今後、**まずは男性社員のリテラシー向上を進めつつ、女性については個別の課題に対応していく**という方針を掲げています。具体的には、次年度に向けて月経関連の課題に対応するため、ピルのオンライン診療・処方を試験導入約100名規模で実証を行い、課題や効果を検証することを検討しています。こうした試験導入については、小規模・手頃な規模で始められること、効果検証がセットになっていることが導入の決め手になりやすいと感じています。

また、フェムテック導入においては、**対象外と感じる従業員をどう巻き込むか**という点を非常に重視しています。過去には、女性のみが対象となる施策への違和感「なぜ自分は対象外なのか」という声もあったため、男性向けの指標やテーマを併せて設計するなど、全社員にとって納得感のある形を意識してきました。



三菱食品が大切にしているのは、「個人の問題解決を押し付ける」のではなく、従業員にとって自然に受け入れられ、ありがたいと感じられる機会提供です。

価値観を一方的に変えさせるのではなく、環境を整え、さりげなく生活や働き方に溶け込む形で支援を行い、その**積み重ねが、働きやすく、働きがいのある職場づくりにつながる**と考えています。

5. 導入事例

(2) InMuSE.合同会社

理学療法士が使用するセンシングデバイス型フェムテック製品を活用。データで効果を可視化し利用者の理解促進に効果！

導入前：理学療法士による女性のケア施設で、エビデンスを重視したサービス提供

千葉県流山市で女性と子どもを対象に、理学療法士が中心となって産前産後の身体ケアを提供する施設「女性とこどもの保健室」を運営するInMuSE.合同会社は、産後の骨盤ケア等のサービスを提供してきました。代表者自身は、病院の産婦人科で産前産後リハビリに携わった経験を持つほか、研究機関との共同で出産による身体変化と心理面の関係について、身体機能評価や心理指標を組み合わせた研究を実施し、学会発表に取り組んできた実績などから、同社では医学的根拠やエビデンスを重視した上でサービス提供を行ってきました。「ペリノス」導入以前から、産前産後ケアにおいても、経験則だけに頼らず、データで効果を確認できる手法を取り入れる必要性を感じていました。



InMuSE.合同会社が運営する「女性とこどもの保健室」

導入検討：実証事業にコンソーシアムメンバーとして参画

InMuSE.合同会社の代表と以前より研究協力等を通じた関係があった大学教員が、アルプスアルパイン株式会社の骨盤底筋トレーニングデバイス「ペリノス」をSNSで紹介しているのを目にし、信頼している研究者の紹介であったことから関心を持ちました。当時、アルプスアルパイン株式会社は「ペリノス」の試験導入に向けクラウドファンディングを実施しており、比較的ハードルを低く導入ができる機会であったため、InMuSE.合同会社として参加を決めました。クラウドファンディングをきっかけに関係を築いた2社は、令和4年度の経済産業省「フェムテック等サポートサービス実証事業費」にコンソーシアムを組んで参加することになりました。InMuSE.合同会社としては、実証を通じて製品・サービスを利用できる点に意義を感じました。また、携帯性の高さが出張ケアを行う同社の事業形態と合致していました。

実証では、「ペリノス」を用いたセンシングと、センシングデータを可視化するアプリを活用し、特に産後女性の体調コンディショニングや更年期世代の尿漏れ予防のための骨盤底筋トレーニングを3カ月間サポートし、効果検証を実施しました。InMuSE.合同会社は実証先として、産後女性に対してサービスを提供することになりました。



アルプスアルパイン株式会社が提供したウェアラブル筋電センサー「ペリノス」とサポートアプリ

Step3:製品・サービス選定

研究機関等の信頼性の高い組織の評価や、製品・サービスのエビデンスを踏まえて、導入を検討する

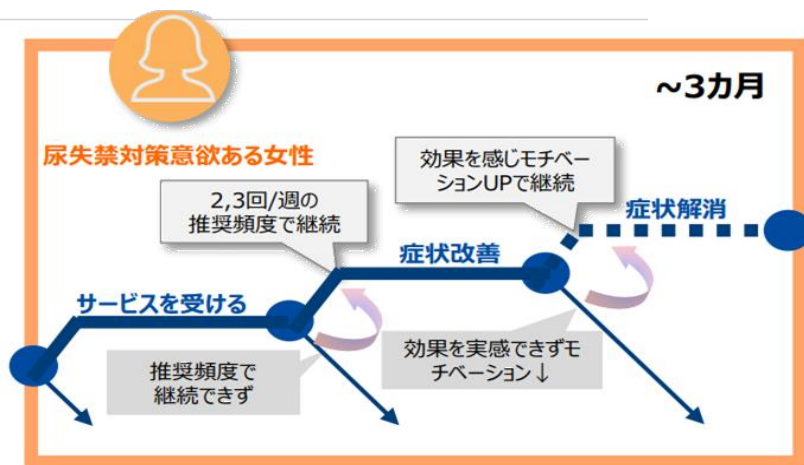
5. 導入事例

(2) InMuSE.合同会社

導入中：理学療法士が「ペリノス」を用いてトレーニング指導実施

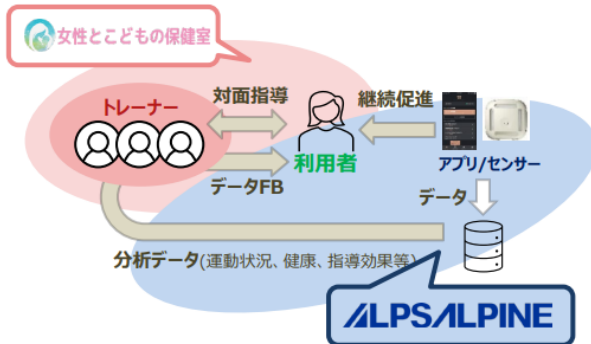
実証事業では、「ペリノス」を産前産後ケアの現場で活用し、理学療法士による指導とセルフトレーニングを組み合わせた支援を行いました。実証の結果、特に「ペリノス」の利用はトレーニング開始初期の動機付けに効果的であることが明らかとなりました。骨盤底筋の動きを筋電センサで可視化し、リアルタイムでフィードバックできる点が、専門職による指導との相性が良いと感じられ、実際に「ペリノス」を活用してレッスンを提供したトレーナーからは「ペリノスにより上達度が可視化されることにより、指導の理解度が把握できた」「グループレッスンで行き届かない個々人への指導について、データ結果を活用することでフォローできる」といった評価の声が上がりました。一方で、一般利用者が自宅で単独使用する場合には、装着や位置調整の難しさ、継続のハードルが課題として見えました。実証を通じて、専門職である理学療法士が関与しながら使用することで、理解や継続性が高まりやすいことを確認しました。

InMuSE.合同会社として、実際の現場で使用することで、産前産後ケアにおける活用の具体像や、サービスとしての可能性を検討する良い機会になりました。



実証事業のスキーム

専門的な施術、指導



生体・行動データ収集技術
データ解析によるユーザ分析技術

実証事業のビジネスモデル

今後：専門職が間に入るBtoBtoCモデルとしての可能性

今後は、実証を通じて得られた知見を踏まえ、産前産後ケアにおけるフェムテック活用のあり方を引き続き検討していく考えです。同社では特に、理学療法士による専門的支援と、デバイスによるセルフトレーニング支援をどのように組み合わせるかが重要なポイントになると捉えています。

あわせて、研究機関との連携を継続し、学会発表などを通じて知見を蓄積することで、専門職が安心して活用できるフェムテックとしての信頼性を高めていきたいとしています。将来的には、理学療法士の新たな活躍の場の創出や、産前産後から更年期までを見据えた継続的なケアにつながる形での活用可能性を模索していきます。

5. 導入事例

(3) 国民健康保険小松市民病院

平時の診療から非常時対応まで——現場に根ざしたICTG活用の実践と示唆

導入前：医師不足・感染症対応から、遠隔での胎児モニタリングの必要性が顕在化

小松市民病院では、妊婦健診や分娩時の胎児状態把握のため、従来からCTG（胎児心拍数陣痛図）を日常的に使用してきました。一方で、CTGの設置場所が病棟に限られていたことから、外来での妊婦健診時には妊婦の移動や医師・看護師の動線に負担が生じていました。また、産婦人科医の人数が限られる中、夜間・休日のオンコール対応やモニター判読をめぐることは、医師が現地に出向かなければ判断できない場面も多く、限られた人員で診療を支える体制において負担となっていました。看護師側にとっても、医師を呼び出すことへの心理的なためらいが生じる場面があり、判断や相談のハードルが高くなりやすい状況でした。こうした平時の課題に加え、コロナ禍においては感染妊婦への対応が新たな課題として顕在化し、医療者と妊婦の接触を最小限にしつつ、胎児状態を継続的に評価できる手段が求められていました。



メロディ・インターナショナル株式会社が提供する
iCTGと連動して利用するスマートフォン

Step3:製品・サービス選定

医療機関が開発（製品・サービスによっては監修）した、安全性と信頼性の高い製品を選定する



iCTGの使用イメージ

導入中：日常診療から非常時対応まで、現場主導で活用が拡大

iCTGは、当初は通常のCTGと同様に妊婦健診や分娩時のモニタリングに使用され、外来に設置することで妊婦の移動負担軽減や診療の効率化に寄与していました。さらに、モニター結果をタブレット等で即時に確認できることから、**医師が現地に赴かずとも状況を把握し、看護師と判断を共有できる環境が整えられました**。これにより、オンコール体制下においても、医師・看護師双方の心理的負担を下げながら診療を行うことが可能となりました。その後、コロナ禍においては、感染妊婦が隔離病棟に滞在したまま、自身で機器を装着・送信し、医師が別室からデータを確認する運用が行われ、医師は現地に出向くことなくリアルタイムで胎児状態を把握でき、必要に応じて電話等で指示を行う体制が構築されました。

5. 導入事例

(3) 国民健康保険小松市民病院

導入中：災害時にICTを機能させるには、平時からの定着が不可欠

従来より小松市民病院で導入していたiCTGに加え、県の施策や県の周産期医療体制を検討する「赤ちゃん協議会」を通じて機器が追加配備され、遠隔地医療や災害時の活用も検討されました。実際、震災時には緊急搬送中の妊婦の胎児状態をリアルタイムで共有することで、搬送先医療機関が事前に状況を把握できた事例や、二次避難してきた妊婦に対し宿泊施設で使用されるなど、限定的ながら有効に活用された場面もありました。一方で、平時の運用や関係機関との連携が十分に定着する前に震災が発生したことから、へき地医療全体としての本格的な活用や効果検証には至りませんでした。災害時にICTを有効活用するためには、機器配備に加え、日常診療の中で使い慣れ、運用体制や役割分担が共有されていることの重要性が改めて認識されたところです。



iCTGの使用イメージ

今後に向けて：平時利用を前提とした体制整備が、非常時の効果発揮につながる

iCTGの活用を通じ、医師が現地に出向かずとも胎児モニタリングを継続できる体制は、医療者の移動負担の軽減や、限られた人員下での診療継続に寄与する可能性が示されました。また、モニター結果を共有しながら判断できる環境は、看護師が相談しやすい状況を生み、判断を一人で抱え込まない体制づくりにもつながっています。こうした仕組みは、医療者の心理的負担を下げるとともに、判断の質や迅速性を保つ点でも有効である一方、災害時にICTを有効に活用するためには、非常時専用の仕組みとして準備するのではなく、平常時の診療の中で「日常的に使われていること」、判読や連携の運用が現場に定着していることが前提条件となります。今後は、へき地や医師不在地域において妊婦個人が利用する形での運用や、遠隔判読体制を含めた仕組みを検討することで、妊婦の安心感向上と地域医療の補完につながる可能性に期待が寄せられています。



5. 導入事例

(4) 株式会社ディー・エヌ・エー

社員の声を起点に、女性の健康課題への取組を段階的に推進。社員の納得感を重視したフェムテック導入の実践

導入前：社内アンケートで女性の健康課題を把握

社員の健康支援施策に精力的に取り組んできた株式会社ディー・エヌ・エー（以下、ディー・エヌ・エー）では、2017年より社員の健康やライフスタイルに関する課題等を把握するためのアンケート調査を実施しています。アンケートの結果から、**女性社員には月経や更年期の悩み、男性社員には女性特有の健康課題を持つパートナーや女性の部下へのサポート方法がわからないといった悩みがある**ことが明らかになっており、解決に向けた施策の検討が進められていました。

そこで、以前から協業関係にあった政策研究大学院大学より、性差医療アプリ「WaiSE」を用いて女性のセルフチェックやセルフケアを促したり、可能性のある病気等を示し受診支援を行うという本実証への参加打診を受けた際、意思決定層も含め快諾しました。

実証参加への呼びかけは、女性社員だけでなく、アンケートを通じて把握した男性社員の悩みを踏まえ、社員の家族の18歳以上の女性も含めることとしました。女性の健康課題解決に取り組む福利厚生等の社内施策は、「一部の社員しか享受できない」といった懸念の声が生じることもあるが、実証設計として男性の家族も対象に含めるといった工夫に加え、ディー・エヌ・エーでは以前より頭痛や肩こりといったパフォーマンスに影響のある健康課題への支援に取り組んでいました。**それぞれが抱える健康課題を楽しく解決して、いきいきと働ける環境をつくらうという社内風土により、女性の健康課題への対応を始めることについて、社内からも前向きな受け止めがあり、実証の協力に至りました。**



政策研究大学院大学の实証担当者による
ディー・エヌ・エーでの利用案内の様子

Step1:課題の認識

アンケート調査で、社内の課題を把握

Step4:組織内調整

対象者を女性社員に限定しない等、導入に向けた理解を広げる

※インタビューを実施した令和6年2月時点の情報。

5. 導入事例

(4) 株式会社ディー・エヌ・エー

導入中：情報提供範囲を明確化し、心理的安全性を担保

健康情報というセンシティブなデータを取り扱うことを踏まえ、参加は任意で、会社はサービスを紹介するだけであり、ディー・エヌ・エー側に個人情報は一切伝わらない設計となっていることを利用者に申込時に説明し、利用者の心理的安全性を担保することを重視しました。

利用の呼びかけは、社内メールの他、社内のラウンジにチラシを置いたり、インフルエンザ予防接種会場に、政策研究大学院大学の担当者がブースを設置し、直接案内することでサービスへの理解増進につながり、50名程度の利用につながることができました。

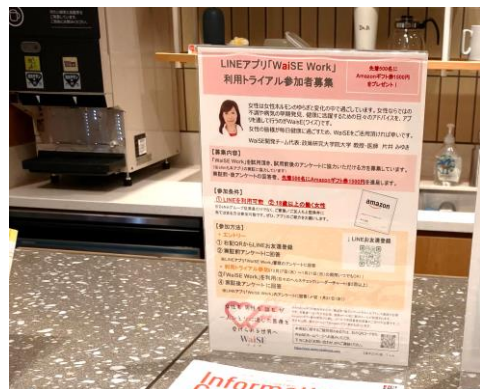
実証参加を呼び掛けたインフルエンザ予防接種会場では、女性社員から「自分が更年期ではないかと感じていたものの、どの科に受診すればよいのかわからなかったので、まさに求めていた施策・サービスだ」といった反響がありました。また男性社員からも、更年期の悩みを抱える妻に勧めたいといった声もありました。本実証ではディー・エヌ・エー以外に所属する女性も含め、計435名がアプリに登録し、実証に参加しました。実証の結果、ヘルスリテラシーの向上効果が認められた他、「睡眠や食事などの日々のセルフケアを、よりしっかりしようと思った」という回答が63.4%、「健診をよりしっかり受けようと思った、健診の結果をよりしっかり確認しようと思った」という回答が計54.8%となりました。



性差医療アプリ「WaiSE」の案内

Step5:試験導入・評価

導入だけでなく、実際に利活用してもらいやすくなるような環境設定等の工夫を施す



ディー・エヌ・エー社内での実証参加案内

導入中：QOL向上に向け今後も様々な施策を推進

ディー・エヌ・エーでは従業員の健康サポートを行う専門部署CHO（Chief Health Officer）室を設置し、社員が楽しみながら健康になっていくよう取り組んでおり、本実証以外にも社員の健康課題解決を通じたQOLの向上に取り組む様々な施策を実施してきました。同社で実証の担当をしたCHO室の畑氏は「今回のWaiSEの利活用により、女性社員や男性社員の家族がのQOL向上につながるきっかけとなった」と手ごたえを感じており、次年度以降の活用についても検討を進めています。

※インタビューを実施した令和6年2月時点の情報。

5. 導入事例

(5) 明治安田生命保険相互会社

客観的データに基づく体調の見える化が促した、働き方と健康への意識変化。社員の9割を占める女性の健康支援

導入前：女性社員割合が高く、健康課題解決に積極的な風土

明治安田生命保険相互会社（以下、明治安田生命）は、生命保険企業として、女性の営業担当者を多く雇用していることなどから、**社員の約9割が女性**という特徴を持ちます。社員アンケートを通じて、中年・シニア層の約半数が更年期障害に課題を感じており、その約7割が業務に支障があることや、若年層の約6割が月経関連（PMS等）に課題を感じており、その9割が業務に支障がある状況が明らかとなっています。そのため、女性の健康への対応推進を重視しており、女性がんの検診費用補助や社内のクリニックに婦人科を新設する等、様々な施策を実施しています。本実証で用いたTOPPANエッジ株式会社（以下、TOPPANエッジ）のヘルスケアIoTサービス「わたしの温度」は、以前より顧客向けに生命保険のオプションサービスとして提供しており、**社員も「わたしの温度」に理解を深めつつ、社員の健康支援につなげる**目的で、実証に参加することとなりました。



Step1:課題の認識

アンケートを通じ、具体的にどのような健康課題が業務に支障を及ぼしているかを調査。導入後の課題のミスマッチが無いよう事前に確認

導入前：参加者の勤務形態に応じて参加しやすいセミナー開催形式に

実証参加者枠は300名限定で、社内向けサイトに情報を掲載したところ予想を上回る反響があり抽選での参加となりました。実証では妊活や更年期といった、社員が企業側に知られることに抵抗がある内容に触れるため、応募意向や参加者情報は匿名で取り扱うよう工夫しています。

実証に加え、ヘルスリテラシーの向上や健康増進に向け行動変容を促すためのセミナーをオンラインで開催し、保険営業で外回りが多い女性社員向けに、アーカイブ配信を提供し、参加率を高めました。



セミナー開催の様子

5. 導入事例

(5) 明治安田生命保険相互会社

導入中：体調の客観的な把握により、働き方にも好影響



明治安田生命の人事部担当者

実証を通じて参加者からは様々な好意的反響が寄せられています。また実施結果の分析からも好影響があったことが推察されます。

実証参加者からは生活面の行動変化や気持ちの変化に加え、仕事面での変化についても良い効果があったと反響が寄せられており、自分の身体と向き合うきっかけとなったといった声のほかにも、これまで基礎体温を測る習慣がなかったという実証参加者からは、「**体温変化から月経周期を正確に予測できるようになり、事前にテレワーク予定日の調整がしやすくなった**」といった具体的な働き方の変化の報告もありました。

TOPPANエッジの実証全体の成果としても、「自分自身の状態を客観的に把握できたか」という問いに対し、84%が達成しました。ほかにもヘルスリテラシーの向上や改善行動の質・量の向上についても85～86%が達成しており、これまでのアンケートでは様々な健康の悩みを抱えていた明治安田生命の女性社員が、**実証を通じてさらにいきいきと仕事や私生活に取り組めるようになったことが伺われました。**

今後：実証という形態で導入ハードルが低下

明治安田生命では以前より女性社員の健康を支える取組を導入してきましたが、こうした施策は全体予算との兼ね合いで、健康改善効果が高いと判断できたものを提供しています。今回は**実証事業という形式で社員向けに試験的に導入することができたことから、今後の導入に向けても検討しやすい情報を得られました。**

同社で実証を実施した人事担当の古瀬氏は「**女性の健康を支援する取組の結果、生産性向上といった効果は後からついてくるものであり、まずは『この会社で働いて良かった』と思ってもらえるようにすることが大切**」と話します。今後も女性が安心し、会社に愛着をもって働けるような環境づくりに向けて、フェムテック製品・サービスの活用も含め検討を進めています。

※インタビューを実施した令和6年2月時点の情報。

5. 導入事例

(6) パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社

女性の健康課題に関するオンラインセミナーで男女・上司部下、それぞれの立場からリテラシーを深め、全体としての働きやすさを促進

導入前：組織の多様性を推進する中で、実証を通じた働く女性の支援を決定

パナソニック株式会社の中で、日々の生活に密接に関わる家電を手がけるくらしアプライアンス社は、顧客の多様な生活スタイルを支援するため、ダイバーシティとインクルージョンを組織文化に根付かせる取り組みを積極的に推進することが必要と感じていました。この文脈で、フェムテックに重点を置きつつも多様な人材が活躍できる社内環境づくりを支援する株式会社nanoniのダイバーシティ推進サービス「carefull」に注目。両社の目指す価値観が一致し、nanoniからの実証実験参加依頼を受け、社員の健康意識とエンゲージメントの向上を目的にプロジェクトを開始しました。

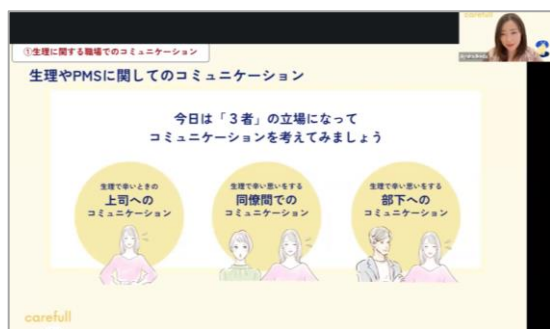
導入中：男性社員も関心を持ちやすい切り口で参加を促進

「carefull」はフェムテックを中心とした福利厚生プログラムの提供だけに留まらず、企業の具体的な課題に合わせたコンサルテーションがサービスに含まれていたことがポイントになりました。くらしアプライアンス社では、従業員一人ひとりの健康と福利厚生のニーズを正確に把握することが必要であり、それに応じたプログラムの導入を実現することができました。

具体的には、健康課題の基礎知識や更年期、月経・PMSなどをテーマとしたオンラインセミナーから実施しました。当初は男性社員の参加をあまり得られていなかったため、課題に合わせ提供内容を検討しました。女性特有の健康課題について理解を深めることはマネジメントの観点でも重要であることを周知し、上司・部下間のコミュニケーションのコツ等を盛り込んだセミナーを実施していくことで、男女双方の参加増加につながられました。

また、セミナーに業務時間中に参加することが難しいと考える社員も参加しやすくなるよう、案内はメールだけでなくスケジュールシステムを通じて案内したり、トップコミットメントにより重要性を伝えるといった工夫をし、効果的な導入に結び付けることができました。

Step5:試験導入・評価 導入中の利用率拡大に向け、トップの巻き込み、コミットメントを得る



セミナー開催の様子

5. 導入事例

(6) パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社

導入中：社員の円滑なコミュニケーションが推進

実証を経て、男女双方の社員から好意的な反響が寄せられています。男性社員からは「月経やPMSがとても大変なことだとは知らなかった」といった意見が、女性社員からは「今まで言うことができなかったが、男性の上司に生理でしんどいと伝えられた」という報告もありました。

セミナーは回を重ねるごとに興味も高まり、最後の配信イベントは半数の社員がリアルタイムで参加しました。男女の社員やcarefullを先行導入した他社の社員が、女性の健康課題についてざっくばらんに話し合うセミナーや、くらしアプライアンス社の事業部長が自ら登壇し、経営視点でのトークセッションを行うセミナーなどを通じて、具体的なコミュニケーションの手法や、会社としての女性の健康課題への取組方針について理解を深めるきっかけを提供しました。社員にとっては帰属意識やロイヤリティ向上といった効果も期待されます。

実際にnanoniの実証事業の成果としても、絶対的プレゼンティズムが改善した従業員が全体の37.7%にのびました。また、エンゲージメントサーベイ項目「あなたが選べるとして、あとどのくらい当社で働きたいと思いますか？」という設問について、パナソニック全体と比べサービスを導入したくらしアプライアンス社の女性社員では9ポイント高かったという結果も得られています。



パナソニックくらしアプライアンス社の担当者

今後：規模・範囲を拡大した支援策実施を検討

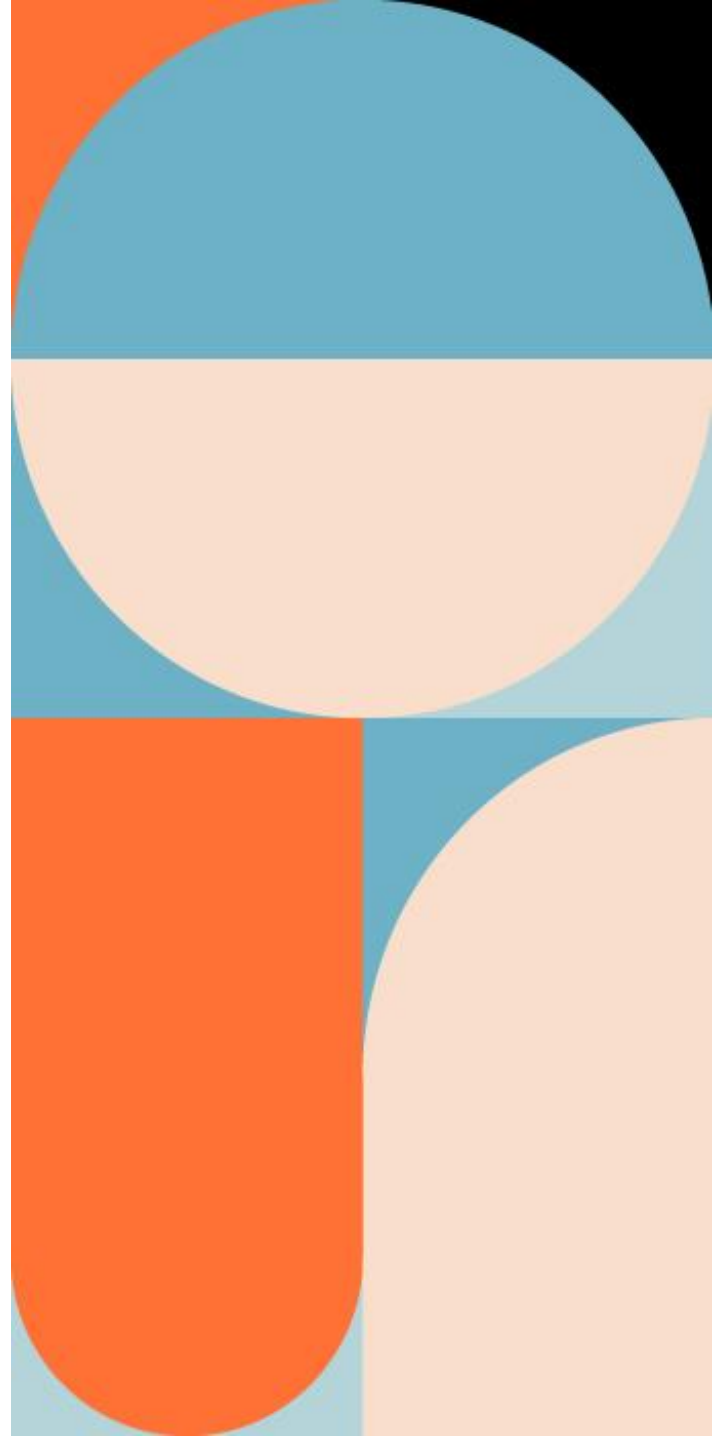
実証事業期間中という時限的な導入であったが、担当の東野氏は「男女の社員、経営層等会社全体だけでなく、組織のコミュニケーション活性化や働き方改革等風土づくりにも良い効果があった」と実感を持ちました。今後も範囲や規模を拡大しながら、同様の事業連携を検討していきます。福利厚生の新規導入は通常慎重かつ長期にわたる検討が必要となるものの、本事業では実証参加という関わり方ができたため、職場コミュニケーション活性化など風土改革や社員満足度・エンゲージメントでの効果を実証し、くらし事業の更なる価値創出にもつながることを期待しています。



セミナーの一部として開催したトークセッションの様子

6

参考情報



6. 参考情報

令和3～7年度：経済産業省「フェムテック等サポートサービス実証事業」について

事業の概要

- フェムテック企業（製品・サービスを提供する企業）と導入企業（製品・サービスを導入する企業）、自治体、医療機関等が連携して実施する、女性特有の健康課題やライフイベントと仕事の両立、ヘルスリテラシー向上等の個人のウェルビーイング実現に向けた実証事業に係る費用の一部を補助するものとして実施。
- **令和3年度～令和7年度に計79の事業を実施。** ▶採択事業者 P48～52

対象事業

- ◆ フェムテック等※の製品・サービスを活用した、ウェルビーイング実現に向けた事業

【事業例】

- ✓ 月経、不妊、妊娠・出産、更年期等と仕事の両立支援のためのフェムテック等製品・サービスの PoC 事業
- ✓ 希望するライフプランの実現に向けた女性の健康に関する理解促進事業
- ✓ 女性の健康やライフイベント（妊娠・出産）に伴う悩みや不安に関する相談事業等

対象者

- ◆ フェムテック企業、導入企業、医療機関、自治体等による連携体
又は連携体を構成する事業者（単体又は複数を問わない）

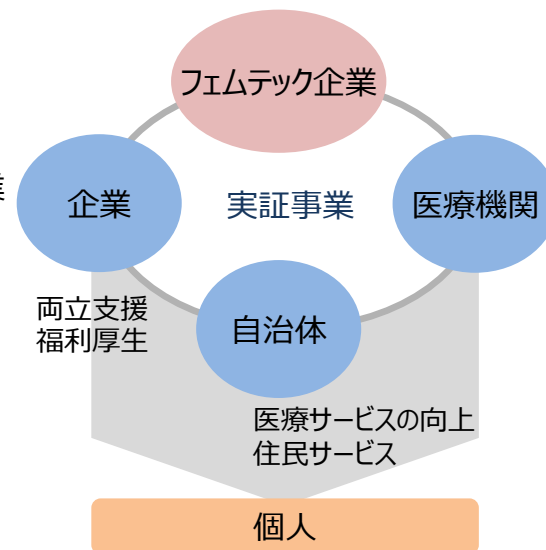
補助内容

- ◆ 大企業：事業費の1/2以内[上限800万円]、中小企業等：事業費の2/3以内[上限1,000万円]
- ◆ 2021年度は20件、2022年度は19件、2023年度は18件、2024年度は13件、2025年度は9件の事業を採択

事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）



※本事業における「フェムテック等の製品・サービス」とは、女性がライフステージに応じて抱える健康の課題解決に資する事業全般を指しており、技術を利用した事業に限らない。



6. 参考情報

経済産業省「フェムテック等サポートサービス実証事業」について

採択事業者一覧

年度	社名	実証事業名	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
3	アボワールドインターナショナル株式会社	乳がん患者の心と体に寄り添う国産シリコンパッド開発					●		
3	株式会社With Midwife (関西エリア)	企業専属の助産師が、働く人の健康や子育ての悩みをオンラインで個別サポート	●	●	●	●	●	●	
3	株式会社With Midwife (信州エリア)	育児中のご家族の育児や復職のお悩みを地域の助産師さんがオンラインでサポート		●	●				
3	一般財団法人ウェルネスサポートLab	女性特有の問題について、友人のように気軽に相談できる「フレンドナース」サービス	●	●	●	●	●	●	
3	vivola株式会社	女性活躍推進と少子化対策の実現を。女性の仕事と不妊治療の両立をシステムでサポート		●					
3	株式会社Kids Public	オンライン定期支援プログラムが働く女性の健康課題にどのような効果があるか検証	●	●	●	●	●		
3	医療法人葵鐘会	約500人の助産師・看護師が、ライフステージで変化する女性の悩みに耳を傾けアドバイス	●	●	●	●	●	●	●
3	社会医療法人博愛会 相良病院	コロナ禍で働く女性の体の悩みを医師がオンライン医療相談でサポート	●			●	●		●
3	シャープ株式会社	生理用品のIoT収納ケースを使って買い忘れと周期管理のストレスから解放	●					●	
3	株式会社ジコネ。	働く女性が更年期症状を理由にキャリアをあきらめないためにサポート				●		●	
3	株式会社シンフォニア	テクノロジーで母体と赤ちゃんの情報を正確に把握し、出産への希望や幸福感を増強		●					
3	株式会社ステルラ	妊活・不妊治療の知識向上を促し、男女ともに働きやすい環境づくりにつなげる		●					
3	株式会社TRULY	更年期の不安や悩みに対する正しい知識を与え、働く男女に働きやすい環境を				●		●	
3	株式会社ninpath	不妊治療をしながらも働きやすい制度・支援の整備を中小企業へ導入サポート		●					
3	株式会社陽と人	デリケートゾーンケア製品を通じた女性のヘルスリテラシー向上・働きやすい社会の実現	●	●	●	●	●	●	
3	株式会社ファミワン	妊活・不妊治療などの課題に対し、専門家チームが周囲の啓発や当事者支援を実施	●	●		●	●	●	
3	株式会社ポーラ・オルビスホールディングス	働く女性の疲労・ストレス状態を可視化し、五感体験を通じてセルフケアサポート							●
3	丸紅株式会社	入社～リタイアまで生き生きと働ける環境を実現する女性の健康課題改善総合サービス	●	●		●		●	
3	メロディ・インターナショナル株式会社	住んでる地域で出産リスクの格差を生まない周産期遠隔医療プラットフォーム		●				●	
3	株式会社SUSTAINABLEME	企業に対する、女性のヘルスリテラシー向上を目指した伴走型の個別支援サービス	●	●	●	●	●	●	●

6. 参考情報

経済産業省「フェムテック等サポートサービス実証事業」について

採択事業者一覧

年度	社名	実証事業名	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
4	株式会社iCaret	個別化・最適化された不妊治療を提案するA I（人工知能）サービスの開発と実証		●				●	
4	アルプスアルパイン株式会社	骨盤底筋トレーニングの長期継続をサポートするセンシングデバイスと連携したアプリ			●	●	●	●	
4	vivola株式会社	2人の妊活や不妊治療をサポート！ パートナーシップ促進ソリューションを提供		●					
4	株式会社SRACreative	思いやりは働きやすさ。コンパッション経営を支援する「トータルウェルネスプログラム」	●			●	●	●	●
4	沖縄セルラー電話株式会社	不眠に悩む働く女性の睡眠を可視化し、原因の特定と改善をサポート				●			
4	オモテテ株式会社	生理用品を外先で取得可能にし“生理ライフ”を快適にする都市インフラサービス	●	●			●	●	●
4	株式会社Kids Public	健康的に働くために知っておきたい健康情報を、スマホで気軽にどこでも学べる世の中に	●	●			●	●	
4	株式会社産業経済新聞社	オンラインコミュニティ「フェムトーク」の運営およびメディアでの情報発信	●	●	●	●	●	●	
4	株式会社じょさんしGLOBAL Inc.	就労妊婦等のメンタルヘルス向上のために「助産師」× AI（声解析）で継続サポート		●	●				
4	株式会社水星	産後のもっとも不安な時期から家族に寄り添い、心と体と生活を多面的・継続的にサポート		●	●				
4	株式会社天煌堂	個人のコンディションとコミュニケーションを整え、人とチームと企業を前向きに整える	●		●				●
4	東レ株式会社	女性のヘルスケアの必要性やヘルスリテラシーを高める機会を増やす	●					●	
4	株式会社nanoni	企業のフェムテック検討状況をヒアリングし、経営課題との関連性を可視化	●	●	●	●	●	●	
4	株式会社ninpath	不妊治療中の心理ケア・カウンセリング機会を提供し、ウェルビーイングを向上		●					
4	株式会社陽と人	フェムテックの超・体感型プログラムで誰もが働きやすくイノベーションが起こる組織へ	●	●		●		●	●
4	株式会社BRING	「アバター」を活用し、助産師へ気軽に相談ができる環境を実現	●	●	●	●		●	
4	一般社団法人ヘルスサポーターズイノベーション	がんばるあなたのヘルスとキャリアの両立を応援するオンラインサービス「CHILWEL」	●	●	●	●	●	●	●
4	株式会社ポーラ・オルビスホールディングス	運動後の爽快感が味わえる次世代EMSで気軽にメンタルヘルス・パフォーマンス向上	●			●			●
4	わたしの暮らし研究所株式会社	生理用品設置をきっかけに、みんなが快適に過ごせる環境を考えるLAQDAプログラム	●					●	●

6. 参考情報

経済産業省「フェムテック等サポートサービス実証事業」について

採択事業者一覧

年度	社名	実証事業名	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
5	特定非営利活動法人 FORECIA	婦人科系疾患の早期発見と不妊症予防を目指した職域健診実証	●	●			●	●	
5	国立大学法人金沢大学	「思考するトイレ」としてのフェムテック情報ステーション構築と研究推進プロジェクト						●	
5	株式会社アイセック	妊娠と仕事、どちらも大事。自治体と企業が連携した両立支援の新しい形を。		●	●		●	●	
5	株式会社きゅあも	心と身体のケアをLINEで学ぶ、あなたとパートナーのためのトレーニングサービス	●		●			●	
5	株式会社TENGAヘルスケア	骨盤底筋の筋力可視化とトレーニング支援アプリで骨盤底筋トレーニングの継続を支援			●	●	●		
5	TOPPANエッジ株式会社	デバイス&アプリで月経随伴症状と上手く付き合う「女性活躍サポート複合プログラム」	●					●	●
5	株式会社Period.	吸水ショーツをきっかけとした教育プログラムの開発	●					●	
5	株式会社Famileaf	妊婦とパートナーの生活を支援する体調管理アプリ！		●					
5	株式会社ポーラ	顔分析技術による産後ケアアプリを用いた、育休復帰に向けた心身リカバリーの実証			●			●	
5	株式会社MamaWell	パーソナル助産師によるデータに基づいた母子の健康伴走サポートサービス		●	●			●	
5	株式会社nanoni	フェムテックの活用による企業の人的資本経営に及ぼす影響の検証	●	●	●	●	●	●	●
5	株式会社YStory	AI・メディカルサイエンスを活用した35歳以上女性向けの更年期パーソナルケア				●			
5	国立大学法人政策研究大学院大学	医師が開発した性差医療アプリWaiSEを活用した健康経営サービスの構築と実証	●			●	●	●	●
5	豊田通商株式会社	製造現場の女性が我慢しない・魅力的な職場環境を整備し「モノづくり力」強化を実現	●			●		●	
5	日本美容創生株式会社	美容院と婦人科を繋げ女性美容師の更年期ケアと波及効果の為のエコシステム開発と実証				●		●	
5	パラマウントベッド株式会社	働く女性の更年期のパフォーマンス向上と組織の心理的安全性を形成！				●			
5	Lasiina株式会社	軽失禁パッドにセンサーを搭載して尿モレを可視化。外出時の不安を軽減するウェアラブルデバイスを用いた自律神経機能から捉えたPMSの評価と症状緩和の試み			●	●	●		
5	特定非営利活動法人日本臨床研究支援ユニット	の試み	●					●	

6. 参考情報

経済産業省「フェムテック等サポートサービス実証事業」について

採択事業者一覧

年度	社名	実証事業名	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
6	ライオン株式会社	「考え方のくせ」を変えるプログラムの実践で、女性特有の不調とうまく付き合えるようになることをサポート	●	●	●	●			●
6	PGV株式会社	更年期障害による睡眠課題の健康改善プロジェクト				●		●	
6	株式会社ジェイコム九州	女性の健康CareをNormal（あたりまえ）に／女性の健康プラットフォームCOTTON／Care Of Things, Things Of Normal				●		●	
6	大阪ヒートクール株式会社	教育機関・自治体に向けた生理痛体験研修プログラムの開発	●					●	
6	メディカル・データ・ビジョン株式会社	「慢性痛と体調不良を可視化するアプリ」と、オンライン・マインドフルネスを組み合わせた場合における、慢性痛および体調不良の緩和効果ならびに女性のプレゼンティーズムの改善効果の検証事業	●					●	
6	株式会社MyFit	医師と医療従事者のコラボによる、持続可能な更年期オンライン診療事業の効果検証				●		●	
6	東レ株式会社	痛みの可視化・共感形成を促すWEBサービスとウェアラブル緩和デバイス開発						●	
6	広島テレビ株式会社	女性アスリートのヘルスコントロールとウェルビーイングを実現するための検証プログラム	●					●	
6	株式会社ジコネ。	非関心層のヘルスリテラシー向上を目指す、職場への月経用ナプキンの無償提供装置設置を活用した女性のヘルスリテラシーの向上施策の実証	●					●	
6	株式会社JMDC	健診データ等を活用したセルフケアアドバイス&カウンセリングサービスによる、月経・PMS症状の改善サポート事業(ICT×人的介入によるプレゼンティーズム・QOL改善状況の効果測定)	●					●	●
6	マインドウェル株式会社	カップルセラピーを活用した一般不妊治療段階における男女へのオンライン支援事業		●				●	
6	株式会社SympaFit	グルコースデータ解析に基づいた女性ホルモン変動予測アプリによる働く女性の妊活サポート事業		●					
6	伊藤忠商事株式会社	フェムテックデバイス「kegg」の普及がもたらす妊活支援の新時代：意識変容と医療介入の早期化を目指して		●				●	

6. 参考情報

経済産業省「フェムテック等サポートサービス実証事業」について

採択事業者一覧

年度	社名	実証事業名	月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他
7	FUJIYAMA BRIDGE LAB株式会社	働く女性のためのウェルビーイングパートナー「つきのかたち」	●			●	●	●	
7	株式会社SympaFit	血糖値データに基づく生理・PMS重症度予測と睡眠改善支援事業	●					●	●
7	国立大学法人大阪大学	脳波による更年期判定AIを用いた更年期症状の早期発見・早期予防介入サービスの実証				●		●	
7	パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社	社員一人ひとりのウェルビーイングを実現する「人が生きる人的資本経営」をサポートー女性自身の健康行動が変わる、職場に集うみんなで変わる“オフィス R i z M o (リズモ)”の検証ー	●	●	●	●	●	●	
7	株式会社ジェイコム九州	女性の健康CareをNormal（あたりまえ）に／女性の健康プラットフォーム COTTON／Care Of Things, Things Of Normal	●	●	●	●	●	●	
7	株式会社WithMidwife	女性のストレスチェック結果と女性特有の不調の相関性を明らかにし、支援スキームの有効性を実証する	●	●		●	●	●	
7	株式会社Melon	更年期女性に対するマインドフルネスプログラムの効果検証			●	●		●	
7	HerLifeLab株式会社	AIチャットボットとPHR (personal healthcare record)を活用したパーソナライズ更年期医療モデルの構築実証				●	●	●	
7	株式会社コスミックコーポレーション	「女性特有の健康課題（プレゼンティズム）による経済損失解消」AIコラボ: WaiSE(ワイズ) x AITS(アイツ)-自覚症状 x 職場健診データから甲状腺検査への推奨度を示す-	●			●	●	●	●

6. 参考情報

ACTION!健康経営「女性の健康サービス提供企業リスト」について

- ・ 経済産業省が推進する「健康経営優良法人認定制度」のポータルサイト「ACTION!健康経営」では、働く女性が抱える健康課題を支援するようなサービスを提供する企業リスト「女性の健康サービス提供企業リスト」を公開している。
- ・ 本リストにはフェムテック実証事業で採択された事業者も紹介されている。

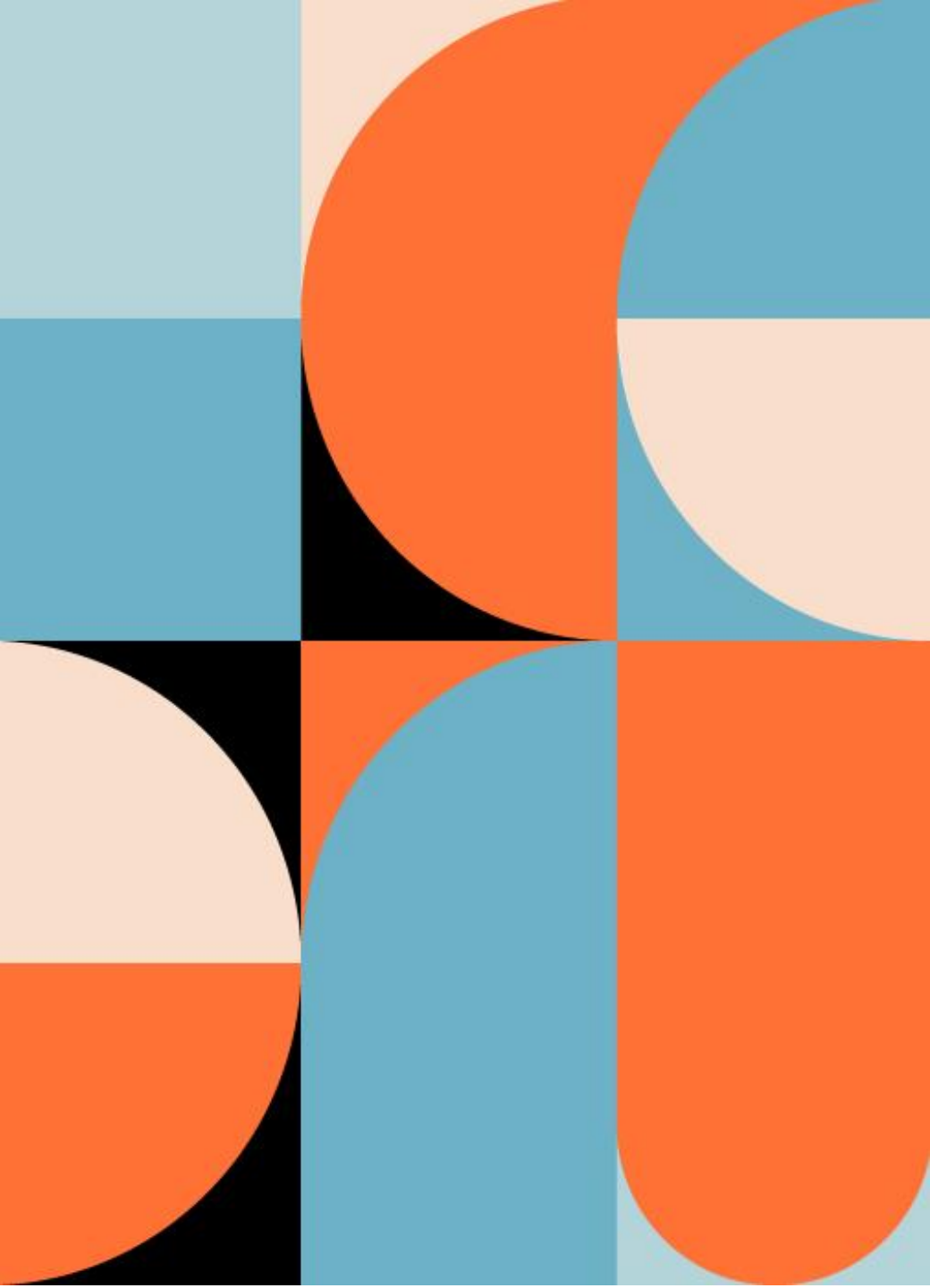
女性の健康サービス提供企業リスト

<https://kenko-keiei.jp/5297/>

※順不同、太字 = フェムテック実証事業採択事業者

サービス事業者名一覧			
株式会社天煌堂	オモテテ株式会社	株式会社ファミワン	株式会社ジェイコム九州
広島テレビ放送株式会社	株式会社SympaFit	ユニ・チャーム株式会社	住友生命保険相互会社
日本美容創生株式会社	株式会社With Midwife	株式会社MyFit	BIPROGY株式会社
アポワールインターナショナル(株)	株式会社PGV	株式会社JMDC	株式会社パソナ
パラマウントヘッド株式会社	国立大学法人 政策研究大学院大学	メディカル・データ・ビジョン株式会社	株式会社ARCH
株式会社陽と人	株式会社イブキ	株式会社シンフォニア	mederi株式会社
医療法人葵鐘会	ReVOOT株式会社	株式会社Kids Public	エクコムグローバル株式会社
株式会社YStory	株式会社ステルラ	マインドウェル株式会社	株式会社ファムメディコ
メロディ・インターナショナル株式会社	PAIRCARE Inc	株式会社きゅあも	
株式会社My Fit	株式会社ヘルスアンドライツ	オイテル株式会社	
大阪ヒートクール株式会社	株式会社リンケージ	株式会社グレイスグループ	
株式会社LIFEM	株式会社ninpath	株式会社よりそる	
特定非営利活動法人フォレシア	株式会社MamaWell	株式会社ジョコネ	
豊田通商株式会社	Varinos株式会社	株式会社ヘッジホッグ・メドテック	
株式会社Famileaf	株式会社TL Genomics	あすか製薬株式会社	
株式会社TENGAヘルスケア	Flora株式会社	株式会社Truly	
TOPPANIツジ株式会社	株式会社ネクイノ	株式会社アロー	

本リストに記載の企業は、2025年3月時点のリストに掲載されていた企業に加え、令和7年度のフェムテック実証事業の一環として実施した過年度の採択事業者（令和7年度事業者単年度採択者を除く）に対して実施したアンケートにおいてサービスを提供していると回答した事業者を掲載している。



協力：株式会社朝日広告社
株式会社N T Tデータ経営研究所